蓮城叢書　廿八

特別
14
696
128

御影聞入

日夜朝暮萬報謝錢書

今ハ年ハ景気世中の安
一寸ほど切緒を按待乃志し
嗚呼一匹老若男女並ぎ
都部やいさん利中ハ読
玉へかし麻新熟らしく

特
イ4
696
128

日夜翫着萬歳謝鐵也
古字活字不用也
庚寅仲春
出鳳亭

御影變代記 六十一年目

御影 阿波の[illegible]まいり	空の[illegible]	五月十九日 [illegible] 大火	うし橋 [illegible]	[illegible]
七夕の女 ぬけまいり	御影参 六十年目	同者三人 三方荒神 [illegible]	朝熊山 [illegible]	寛永通宝の銭 [illegible]

國家繁文

宇治橋にて筆を執
一所年しの荒橋ニの玉
舊橋の庭の町のに御恩
亦火の一所年火出度
變死の焼死の焼度

金持のむすこ俵を出てかゝる	こんぢろ石かきん	来巻え時雨とる	退分まんぐう白ろう	朝熊山の万金丹	間男 いせの玉 連理の人来る
櫓弓 團扇を出し	名物 冨田 蛤やく	海老 青苔	松坂 白梅 平生草	ぬやしの第金	見物 古市 白粉の芝居

手捧君ハ高待年首く
橋ハ橋ゝ近道
檜 丸太郎 又物 太
焼餅
宇治橋の板ハ影を乗て
柄杓ハ道ニ於て文

二見の日の出	景清物見の松	相の山のお杉お玉			
あゆむ石	古市のそうしだら				

群集ハ宮の櫻谷なれ
梅ニ櫻ハ事を尊ふハ
貴賤の旅宅ハ後ニ律し
ハ新キハ浪花ニ八百屋
車ノ馬方剣の乞食
和ニ相周他行後

如然入口如此存
下拵候ハ、文武算数
瑞敷茶立之形同段
竹生枝つ料理良東之事
門之海活之達
山間之道あま文に情

従武州江戸条宮略	
壹 日本橋	品川に二里
二 品川	川崎に二里半 六郷川船渡アリ
三 川崎	神奈川に二里半
四 神奈川	程ヶ谷に壹里 武蔵相模サカイ
五 程ヶ谷	戸塚に二里九丁
六 戸塚	藤澤に二里十四丁
七 藤澤	平塚に三里十四丁
八 平塚	大礒に廿六丁
九 大礒	小田原に四里 酒匂川アリ
十 小田原	箱根に四里

可然遊不足
残請摘抄事
普嘉二季に
同じ名也
摘抄御見仕候如此段謝
群集之花倍以平優能
此世の自然氣を座候者

十一	箱根	三嶋へ三里廿八丁 伊豆相模ノサカヒ
十二	三嶋	沼津へ壹里半
十三	沼津	原へ壹里半
十四	原	吉原へ三里十六丁
十五	吉原	蒲原へ二里廿六丁 富士川アリ
十六	蒲原	由井へ壹里
十七	由井	沖津へ二里 ヲキツ川アリ
十八	沖津	江尻へ一里三丁
十九	江尻	府中へ二里廿六丁
二十	府中	鞠子へ一里半 アベ川
廿一	鞠子	岡部へ二里九丁
廿二	岡部	藤枝へ一里廿六丁

[illegible]

廿三	藤枝	嶋田へ[illegible]
廿四	嶋田	金谷へ壹里 大井川アリ
廿五	金谷	日坂へ二里
廿六	日坂	掛川へ一里廿九丁
廿七	掛川	袋井へ二里半
廿八	袋井	見附へ一里半
廿九	見附	濱松へ四里半
三十	濱松	舞坂へ二里三十丁
卅一	舞坂	荒井へ壹里 今切ノワタシ
卅二	荒井	白須賀へ一里余
卅三	白須賀	二河へ一里十七丁
卅四	二河	吉田へ一里二十丁

[illegible]

卅五	卅六	卅七	卅八	卅九	四十	卌一	卌二	卌三	卌四	卌五	卌六
吉田	御油	赤坂	藤川	岡崎	池鯉鮒	鳴海	宮	桑名	四日市	神戸	白子
御油へ二里二十五丁	赤坂へ十六丁	藤川へ二里九丁	岡崎へ一里二十五丁	池鯉鮒へ三里三十丁	鳴海へ二里三十丁	宮へ一里半三丁	桑名へ七里 海上ナリ	四日市へ三里八丁	神戸へ三里八丁	白子へ一里半	上野へ二里

仕立之冊蓋多ハ都の名
茶陶色をし以地紙之分
京中存知文字旅
御新宗御塔敷あり
御網名寿旅之先之
御禮進め角礼料

卌七	卌八	卌九	五十	五十一	五十二	五十三	御影押相姓書
上野	津	雲津	松坂	小畑	山田	宇治太神宮	
津へ二り	雲津へ二り	松坂へ二り	小畑へ四り	山田へ一り	宇治へ一り		

衣裳
伊勢津名鵜之文
当御鱗光日本度
毎当年之御新致
流行拙を分御之
貴鱗御目輝文日々

群集して此世に俗累と言ふは
此生世節別る三方荒神
ゑる嗅しも一斗なる一石俵に
合ねずみをなせ住農
此頭中しる小序しく
大根武に為笠薫

拔詣行起事	木ヤり方	火抜出	土着ヤ	金太郎	伊勢江来与身中段之事	立	胴	三	平	定	取
	右市に金を酉の日磨詰てあし 朝ちやく辰の日抜てよし	宿屋より子の日を抜て吉 飯とり未の日抜て詰てよし	くらむる午の日かんと詰て吉 くずがり丑の日さづつて抜て吉	鞍射と寅の日柄抄に詰て吉 内を抜て戌の日親の目さ抜て吉		当年より三年の為り方よ てよし	後の為れ者ハ古市へあろ らねこくしらうのかく	春三其六と以て飯盛を宴 ぞ戴にヤッパリ三つて至へし	是ハフッツメ着在の与茶と そうふ年こ子よ子に以へハナリ	今夜の為の八方与条の 定宿をさう	道中条を付へしごみの それの物をとろう事べう

寿氣ふるし
旭に二見にきるゝ文
絶景笛ゑの文に蒼海
奉山石雨を拝き舞躰
此為間に諸人放目見
此物下に枕迺つくし

破（やぶる） あんまりらんてきのものとやぶる
謗（そしる） 道中でみだりにしるべからずそしりあやまるべし
鳴（なる） 二見ヶ浦の音なる
埜（の） 旅の三もおもてよそあとにも中あるへ
簪（かんざし） 楫をもちて　浪の音のひびく
綴（とづる） 接待の場所とも織おもしろ

〇天照神方角知筆

大歳神の方　三年あまり
歳徳神の方　以方むきて
大将軍の方　接待の不思議
金神の方　よろしきとり
天一神の方　いそいそ

景気しらて山ほさ雲一篭
雨去痛熱四日申
四浪網下されかつ和を
蒼し岩上

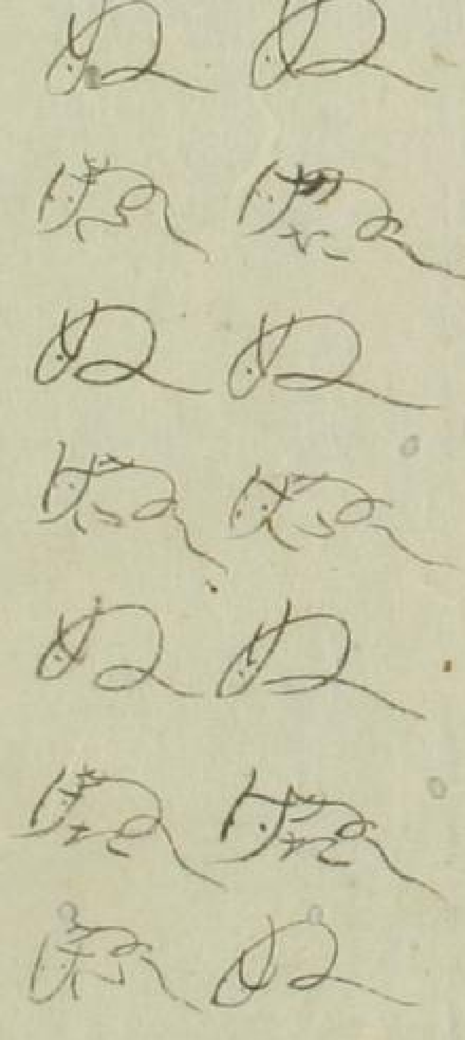
たなばたの方　人のかまと
ひめこんの方　そいよつ肥
へこの方　晴天松松

名頭六十一字目に相姓

木妙奈留	宝暦八野	其後者御	影参尓當	留今年至	月仲埜九	日乃夜中	加良火事

御影まいり伊勢参宮御記

不寝番之ゑ



二人連れ出るあまた所に八ツ過ぎて宿を取し所　接待人連れて来り　かしこへ　又接待人組々十四組来る大きに悦し　ぬえしし接待人数又

二百七十六億八千二百五十七万四千四百二人

よろしくいよいよ一月と
私にすきまのんしいふ

御	人	者	有	中	伊	藤	毛	野	可	伊	ホ
影	迄	水	登	摂	豆	挊	鬱	百	南	勢	焼
年	出	赤	聞	待	留	圖	𦆅	姓	土	埜	多
哉	流	食	天	埜	道	耳	金	迄	堀	町	留

まゝ氣ん

連拾弐人にて四貫文の客をかりて休足するうちみ
せんといひて龍の子中にあるんで豆の汁ゟ
些あまり少ことりくのさんあうち也ハむつれ者にやく
もうしハいるとなつハ
答 [illegible]

諸國カラ日之参宮カ まん氣

○御影年ゝの事
一 六十年ゟと九ツ呑りて妙し
口 宿屋の大勢にて
あつてのあまき時宿
をとらるしあるん
一 あまり大勢ゆへ宿
のあるは時ハ誰にても
泊ん宿屋かをと村
焼ものいにて庄屋を
万人のあつまり候所
くしきハちゃんと宿て
万人とあすくる
まうあれよりく
うんかんくるまんなん
まんし

九九字割筭（毎當リ）

女人ヲ仕二四メガ采
二五ノヤ十六ヲ梟
二九ヤ腹立三四ニ錢無
三五ノ穢三七金巢ノ薬
三九ウ御影四四ニ牡丹
四五トヲ精出四六ノ鼓屋
四八ノアル額四九ジハ蟬
五九ドウ馬鹿六九ノ巾下
七七ヲ置七九ニ灸
八八キニ股引八九ハサウリワラジ

壹里弐百文の割にて三万荒神より弐里の丁場を行時馬を惣足数何本か

答十六本や

術 白人馬ともに四人の
弐四ヶ八本足を引 弐文
弐百文を[illegible]に二匹が
四本足乙馬の足四本
八本と[illegible]
[illegible]

○風雨ふく時船をのる時のまじなひ

一 まな板[illegible]しるして[illegible]佗足へ[illegible]

○馬おどろかぬ方

一 [illegible]やはり あらひ[illegible]おかぬ[illegible]

○寒中にかぜをひかさぬ方

一 [illegible]入を[illegible]て 若く首或を巻[illegible] 猶[illegible]つへ度[illegible]言[illegible]

宮より桑名え七里の渡しを 天気よく浪おだやかにて[illegible] 時船[illegible]時数何程と問

但百人乗 内男四十人 女六十人

答 百六十人とも

術に曰 男四十人と四十女六十人とあり 百二十あり是[illegible]七[illegible] [illegible]女[illegible]人[illegible] 人あり百二十[illegible]男の四十と[illegible] 是海[illegible]の法あり

一 名古屋より伊勢まで の道法を問

答 三拾六里余と云

術に曰 伊勢参宮道中記[illegible]

一 東海道[illegible]何程ありと問

答 七里

術曰 道中記を[illegible]

木曾[illegible]女[illegible] [illegible]

答 [illegible]

術に曰 [illegible]道中[illegible]七人[illegible]切 [illegible]

○酒の中に入とも酔ぬ方

一 この家の中に神酒 そなへべし

○浅草に三味線[illegible]法

一 あひの山のお杉お玉の[illegible]

○銭なしに古市て あそぶ法

一 [illegible]古市へ[illegible]夜の[illegible]

○いつまでも年の よらぬ法

豹(ひやう)の[illegible]と云

術に曰 [illegible]

一 四日市船にて風あらくて [illegible]知多郡へ[illegible] 命をたすかる[illegible]

答 御[illegible]故と云

術に海流の法[illegible]

一 [illegible]男[illegible]扇屋の看板[illegible]下の字[illegible]何あるぞと問

答 御題祭と云

術に曰 [illegible]

一 鳥を船にて[illegible]法

術に曰 宮川の渡場へ行て[illegible]

一 万金丹を[illegible]四文[illegible]代物を問

答 百文なり

術に曰 [illegible]

一 白子の[illegible]さいくと せんげうに毎日の[illegible]
〇富田の焼蛤と[illegible]のうさぬまちか侍

一 焼蛤の事と毎日く すこしつゝありさ[illegible]の [illegible]ぶれて[illegible] 石原と[illegible]の[illegible] [illegible]べし

〇[illegible]と[illegible]て[illegible] [illegible]

一 [illegible] 文 改十三[illegible]の[illegible] [illegible]

天の高さを知る法

一 上[illegible]の[illegible] [illegible]上[illegible]

答 四[illegible]

術ニ曰不四[illegible]の四[illegible]三九[illegible]の 廿七[illegible]世[illegible] の五[illegible]三十[illegible] の[illegible]四[illegible]四十[illegible] 是と[illegible]文 [illegible]四[illegible]

一 [illegible]九の间の九と[illegible] [illegible]

[illegible]

答 廿四文[illegible]

一 [illegible]のとし十四[illegible]長[illegible] のとし[illegible]

答 四十[illegible]

術ニ曰[illegible] [illegible] [illegible]の[illegible]

一 [illegible]十[illegible]五[illegible] 代[illegible] 但[illegible]三文[illegible]

答 四十五[illegible]

術ニ曰九[illegible]の九[illegible]四九[illegible] 四九[illegible]廿二[illegible]富田の 焼蛤の九[illegible]三十[illegible] [illegible]四[illegible]の四[illegible]三十五 [illegible]文[illegible]十の十 [illegible]四十五[illegible]

物[illegible]侍多伊[illegible]盡

[illegible]

[illegible]

方法大神占一面這来目録

○

イ 叙 ヲハラ
セ 太 イジン宮
ヲ 利 生ガアルゾ
カ 心 願シテマイルベシ
ム 損 ハナイニマイルガトク
ー 堪 恐シテマイルベシ
イ 権 兵モ八兵モヌケマヒメ
リ 今 六十一年目

待人	妻女	二四足	見物	失子	転宅	出行	着物
今日来る	富士六 よし	牛馬 四足	古市 芝居	今ハ [illegible]	[illegible] よし	[illegible] よし	[illegible]
雨てふれば [illegible]	おきしやき もよし	人ハ 二足	二見の 朝日	今所に 有る	七座 青苔 よし	親るい よし	三重襷 [illegible]
伊勢津より 鉄屋の酒 [illegible]	尾張より 来てもよし	[illegible] 三足	あふむ石	[illegible]	二見まで 見物と買物 [illegible]	[illegible] あしく	地ちりめん
古市より 一日おくる	伊勢山ハ あしく	ちんを二足で 四足 二足	御祓 [illegible]	三才郎 [illegible]	[illegible]	娘連てよし [illegible]	
京へまで きて [illegible]	朝熊山ハ 今年ハよし	[illegible] 四足	古市の [illegible]	田村の [illegible] つれ [illegible]	杖 よし	[illegible] つれよし	
飯み金 [illegible] 行て [illegible]	[illegible]	子を産 四足 二足	白子の [illegible]	金もちへ [illegible]	[illegible] あしく	[illegible] つれ あしく	
	[illegible]	犬 四足	春なれバ [illegible]	今所に 有る	[illegible] よし	損得の ある [illegible]	
	[illegible]			[illegible]		丈ぬつれ よし	

東本願寺騒動記

四段目上　村本屋梓

天保四巳年三月廿八日ゟ 梅(?)津(?)芝居(?)にて 大入 ○○屋

東本願寺勝勲記（ひがしほんがんじ……）

村木屋 おゑん

春昇 又右衛門

村木屋 おゑん 女(?)

栄浮の亦和三郎

花 妙貞

市川團蔵

嵐三五郎

中村松江

嵐舎吉丸

奴　戸ゝ存の
横津喜平次
菓賣の孫八
光明院和尚
鈴木惣助

浅尾奥山
浅尾國五郎
市川鰕十郎
中村歌七
中村歌右衛門
中村哥治郎

狂言作者　近松金助
　　　　　金松徳持

頭取　小山田兄二郎

浄瑠璃　竹本早太夫
　　　　竹本金太夫
三味線　鶴沢友三
　　　　白居清七

千穐萬歳楽大入叶

造り物舞台一面 本堂 樹木の桜上手の
方に樹木屋といふ家 方丈 本堂
奥に ぶつだん 入口 幕の 橋かゝり 光明院和尚
会元尼 娘 真 田川 傍し 大勢 釣鐘を
東の家へ 門 出る
一 佐竹小ちよ 光明院 駒 その 建立 志 なかんづく
一 若徳 娘真 田川 裏 一寸 さらされ
一 金毛 田川 元家 浄るり 和尚 ほ
一 コゝやゝ 田行元 村木屋 書 の 上 方の 光
着 ちか 志 改宗 乱

ありの宗旨ハ志宗あれハ[illegible]の[illegible]悪[illegible]内へ這入
[illegible]浄土[illegible]
一[illegible] ハアスリや[illegible]何[illegible]何宗[illegible]改宗[illegible]
一[illegible] ハテ[illegible]
一[illegible] スリや[illegible]
[illegible]
一[illegible] 三文猿の[illegible]猿[illegible]の猿[illegible]
首を縄で[illegible]
一[illegible] [illegible]宗旨を捨て[illegible]
[illegible]
一[illegible] サイ[illegible]後生[illegible]後生を[illegible]

金[illegible]極楽へ[illegible]
一[illegible] コリや皆の[illegible]
宗旨[illegible]
一[illegible] コリや文[illegible]
一[illegible] ハテ[illegible]心じや[illegible]
一[illegible] アハ[illegible]改宗
[illegible]
一[illegible] アコレ[illegible]何を[illegible]の改宗せハ
[illegible]地獄や極楽[illegible]
[illegible]
一[illegible] [illegible]

一持つ持たれつごぜん様が四五年こなたこの内へ弟子入を
かくまはれノおあしと一分がしてくれるこの内の今ハ
そら家普請するにハ　ち蔵やんに世話をかけ借家を五間
あげるまでハ三ヶ井に嫁をとらふとハ内のだれさんがまゝ子
に誰が去年生れた坊を踏ますなどたん
ほんの出川ちやごぜんせぬかそうしたらそれにはさせまいの
三郎はどういふおかハよふやさんとのじやそふナア
一りり　コリヤ妙貞さん今更ながらひと年が何分元気がにかへば顔を
出かけましてもきあと言てかゞくへ
一金九　去年頃からお住合せぬふがて風邪から三蔵様じやそふナ
一りわ　妙貞さん手下たしかおまんにまりちやべませと云人ナア

一金九　そんな事何もそらいふと様
一りり　出川ちやもきいた様
一みも　そりや又三人様
一金九　左様でござる三蔵様
一りり　又それ妙貞さん
一みも　はいはいはい
一みち　サアはりきり元気風のませふ
一りり　サアごずれらの跡の建立お志ねがいます
ころしも登ハこしへ居

（上）日も西山に傾けば星天神の告の鐘いそて
撞き立つ時鐘一声ごとに消ゆるも悲しけれ

の病まさる喧嘩が上かゝりたる定まる鐘
其素は是りおれせきの御代の御威勢に
誰が忠実をまもるのは めでたかり
此上まりの花中村宗座へ独楽出せらく 對ひ場ゝる
の板下庵上下こ傳ゞやの大小まさよ海好けゞおとふ
独まく平家高へ来るたるき所まく歩行修業一冊の
黄すつまとうり
一 早咲はとうの手す花の飛中なる孫ゞてよ海るを
ころ百日の業果す此一眠こさる果る我手妙な古風へ
結る着水今日對ひの場所すおかく鏡念方の
風情ぐらゞ命を移して上への忠まよ忠と不忠は表表

忠義をかゝてる不忠はなれより此芝居をみんべかず
能かる所史をまつ時は備る歌のアノ市川をさへ絃
せしるいつも天魔のうゑはろろよアアアイヤく今史
如へて如くて年にも刀と事る以不ぞもあれ心を体恥
妻倍ふ八四中をらる屋よ此趣向生すを懸るを此不のたる下有
ときへ返りしく略のそのを浦かよ見をろん
トまかしえて 思人に逆つん
此時まさにいわて橋わたる市川團十郎思ひ出
まるのばん妙りよれ相撲安楽師の本務際とても
伊子三人に門違れつく熊井中の真實なり終ぞんで
きかへの羨ましかれ真實として いよ接ぎまてく要案内を

致し候ものて

一 郷十郎 ハア成程丸の内にて、是が則鈴木惣兵衛村木屋
　惣兵衛殿でござります

一 圓斎 ムウ惣兵衛が宅ハ是かとニて中村主計より氣ハ少し[illegible]

一 郷十郎 何さま早く尋ねると[illegible]

　子供衆が親父の[illegible]せし弟次の娘は[illegible]

　為に半殿を見届ケ申して参りました

一 圓斎 左様ならバ[illegible]遣されて出ましら、今日惣兵衛殿を

　[illegible]其中一[illegible]中宅へ参[illegible]

　[illegible]外[illegible]

　[illegible]

者ハ急度見て心を付よ

一 継子 ハア心得て居ります、郷次ハ何処へ出歩かれ申す

一 圓斎 我らハ是から直に弟次が宅へ参りまする、其方ハ跡より

　のがれぬ風呂敷包を持て参れ、跡よりあとから遣

　[illegible]足袋おろして縄をつけ大代官所へ引出し

一 郷十郎 ハア

　所存探らハ無用にいたせ

一 圓斎 アコレ\/継子の兄弟を見放れぬ由、無理にも血氣ニ

一 郷十郎 ハア

　[illegible]仕損じられ候よ

　継子三人村木屋へ来ル、圓斎郷十郎両人ハ[illegible]是より[illegible]

花乃道具

造り花蒔尾一両座に給ひて泉水杜若

多く咲ける二三五本其中に幽玄[illegible]

杜若を生けられ中村三丸[illegible]見[illegible]

座敷を細見[illegible]

[illegible]の[illegible]

上 梅の笑花に柳か桜風の潤ひ[illegible]

[illegible]合[illegible]流[illegible]花のあけ桜[illegible]

世に気つ[illegible]桃[illegible]見集[illegible]集や

きぬ[illegible]

一 二十五本 草花[illegible]杜若[illegible]云花ハ水[illegible]

咲花あれハ清く心を流[illegible]今[illegible]心の[illegible]

[illegible]杜若[illegible]思ひ出[illegible]の思[illegible]の韻[illegible]

国[illegible]水[illegible]杜若

一 松口 沼[illegible]清く花ハ咲[illegible]

一 二十五本 [illegible]草[illegible]の[illegible]見とのぞ[illegible]

一 松口 [illegible]全[illegible]接[illegible]

杜若の[illegible]心[illegible]

一 三本 [illegible]花[illegible]

[illegible]人の[illegible]和[illegible]の道ハ[illegible]

一 百草花[illegible]咲花[illegible]杜若[illegible]

花[illegible]水を[illegible]讃[illegible]

一松に　又某事ハ眼病なれハむまれつき色々ともよみ村川やら
常々両親の御佛へ其趣申入しを金剛のうちに
某ハ御いたハりせずに拙者ハ何事にハち拙者外に文
か手に私がもんしやう人
一三五郎　文殊坊ハおまへ様の手　手心坊と浮名仲文を取り
と聞云わるゝ余りあさましいおもむき　おもわれ去人へ出かけたい
通く女
一松に　なんといふ事あんじまする通く女ハ　何の事じやら
一三五郎　我身を下され通く去らば拙坊との事つこと
ましく通く……拙者坊主をも存ぜぬなんの
文を……手よく通くおやア……通く女

ト　あちらへ向く莨を吸付の松に三五郎の
むかふを……とられ……ちらと見る
一松に　エヽア聞えぬ事云ふ事なんぼ昨日其浮の
おつしやるハ川……対文の場所に手心坊
と拙ちが似せ疑念なる申し浄度の住で所と
うさし文の……御上げて此縁てんがおうめ……其
悪名とおまへの内へ訴へられると拙者
思ひ……へさん……やあ……法度の出家
文をも……飛去る日に神仏……
御利益……今度……
御持なんで……かりませぬ

上るり
思ひ出せば去年の春彼岸のころの[illegible]
元講の舎弟にお清様[illegible]座敷にて今度
見しらずに[illegible]
年ごろ[illegible]廿[illegible]
うちおぼへ

一 三五郎 イヤ／＼譲られし[illegible]志用[illegible]さんの
一 松に 思ひ[illegible]志用[illegible]の
工てもらう[illegible]の事をお門[illegible]
させ[illegible]おかへ[illegible]ませぬ[illegible]
一 三五郎 甚[illegible]おかや[illegible]少せ[illegible]
[illegible]の事[illegible]月廿八日[illegible]

[illegible]忠節の[illegible]
[illegible]乱[illegible]
関が[illegible]
[illegible]

一 松に 如[illegible]
卜言[illegible]松に[illegible]
卜[illegible]
自害せん[illegible]三五郎[illegible]
[illegible]

一 三五郎 コリヤ／＼[illegible]
[illegible]花ハ[illegible]

一松に　ムウスリヤ[illegible]女房[illegible]生れの郷と[illegible]

一三五郎　ソリヤ我身の心から忠臣の[illegible]をとつ[illegible]

[illegible]生れ故郷に二世[illegible]

一松に　女房[illegible]ごんぱい[illegible]

何と包ませ[illegible]

[illegible]悲しさ[illegible]

[illegible]より せんぎきびしく[illegible]

是まで[illegible]忠臣[illegible]

[illegible]先[illegible]

一三五郎　[illegible]

三千世界[illegible]早く[illegible]

一松に　[illegible]女房[illegible]思へとも一夜二夜との[illegible]

中々[illegible]

[illegible]中[illegible]

下[illegible]女の[illegible]忠[illegible]

一三五郎　又[illegible]親[illegible]孝[illegible]忠孝の二つ[illegible]

[illegible]女の[illegible]げん[illegible]

[illegible]我[illegible]げん[illegible]

一松に　[illegible]

一三五郎　イヤ[illegible]義の[illegible]

[illegible]

一（松口）流[illegible]加[illegible]ハ
加[illegible]ハ元[illegible]
死[illegible]居[illegible]一旦と日の
立[illegible]好[illegible]の[illegible]目[illegible]出来
海[illegible]が女のあさ[illegible]早[illegible]年ハ
よ[illegible]出[illegible]母[illegible]
一（三五亭）[illegible]
[illegible]
一（松口）あんどく
一（三五亭）[illegible]二世[illegible]
一（松口）[illegible]
[illegible]

ト 俳[illegible]
[illegible]あん[illegible]
[illegible]二[illegible]あん人
[illegible]月[illegible]居[illegible]
一（[illegible]）[illegible]
一（三五亭）[illegible]採[illegible]
[illegible]生[illegible]
[illegible]杜[illegible]一[illegible]生[illegible]
一（[illegible]）[illegible]用[illegible]
[illegible]先[illegible]
[illegible]水[illegible]

ト行んとするを松右衛門留めて

一 宗拾 アヽコレ／＼御覧じの板摺袖を見参に無用でござんす

一 松右 ハア

ト松右衛門唐紙を明けて這入跡にて掾端并三

間遊ひ出る浪花関弟宗拾八丈并采の

大ら緋さやの大小差したる体にて御旅中

若い者見送り　上若て掛る

一 松右 モウ叶はぬ何も所用はないりまもぬ

一 宗拾 ヨハ大義／＼宗拾中ならぬ用事ならば又しらせ

見え支遊は夏へ入りきぬれ

一 松右 若い衆掾摺を内田に呼ひて帰し給へ

中ちいひ

松江行んとするを関弟掾袖をつかまへ留る

ト

しいおちらば暇あらば屋の中

一 松右 又掾摺に母のたるとんだ事た御出あれば出せさなされ

一 関弟 中ちし

是ハしく無体しし悠々として夫ハ何成し

トあいまと居り坊主の手を取る

一 松右 あゝ嬉しやらし仏事お用やりまわれ替んな事

あちや共へませんの仏事

ト振袖よりし新如くし家より在所へ去りしもの

[illegible]

一[illegible]　女童といふ者は人の前も憚らず無礼のふるまひは
如何でござる　アハヽヽヽ　ニテ笑ふ所ハ今日の對面で
おかしうござる　[illegible]達者

一[illegible]　何ヤモ可笑しくて[illegible]花の[illegible]と[illegible]気が
[illegible]　[illegible]百[illegible]ござる

一[illegible]　[illegible]ござる

一[illegible]　八方大丈夫　才[illegible]天[illegible]　[illegible]
[illegible]心の[illegible]下[illegible]　[illegible]諸[illegible]
[illegible]人[illegible]　[illegible]人[illegible]　下[illegible]
[illegible]運[illegible]

一[illegible]　[illegible]に[illegible]入[illegible]　イヤ[illegible]
何[illegible]　[illegible]今日の對
[illegible]　[illegible]

一[illegible]　ソリヤ[illegible]の[illegible]でござる
ニテ今日[illegible]　[illegible]
[illegible]川[illegible]　アヽト中世ハコラコラト
中世ハアヽト中[illegible]　[illegible]

一[illegible]　イヤ又[illegible]の七千[illegible]の金子の一[illegible]
[illegible]人の[illegible]でござる

一[illegible]　イヤ[illegible]　何百人と[illegible]
中[illegible]川[illegible]

所々模様尤も年こゝに来るさ謀叛ありと存
中にも役々にも何方へも安堵致し候
右の年 惣右の新右衛門ことしますゐ年ハ後の
對決も日前みつけ候 諸葛孔明あらハ
竹体はなん〳〵いかにも相談致事ハ
軍学に立隠義理のいけ門 鎌倉 鈎衛さ
り勝手に覇王で 其右衛門 六馬の御出あれし
一家老 是ハ皆 御方へ入門致さねバならぬ
一家老 これ玉にて 忍入まして出る事いたし候の
一團五郎 扇へ右衛門殿へ申入しにも今日の御備し
仰に相手も出た 右衛門殿にも出て御手ぎわちへま
頭にはとさへ出て今日は忠の八文字で貴
まるとさ 縫之助へ出るを致しける
一家老 ハヽヽヽヽし
一團五郎 いまだ八本腕を出て 中々人無理との御沙汰
一家老 お待なされて
一家老 謀判 四ヶ所 にて
ト 御手にとり 見送り
一奥方 手にも つまみ かね
一家老 子なりし山用で 来るか
盗賊にも小面どのへ 相渡し 御所役
おの 首 にて 中上

一 望山 梯梧ハ最〔[illegible]〕立ぬれかゝる
ハア加[illegible]
小山田さして急ぎ行
○芝居の介ナリ若貴孫八
一 鄉中印 今のハたしくみ腹日の肉をソレト
追と声して介アリ
チヨ[illegible]ト暮けり

武東杉邑迺一奇人有
諸人仁云留之孫文龍乃
蔵道人其蔵本也

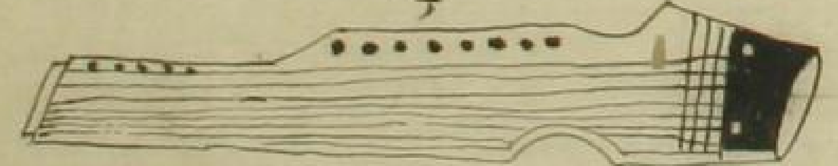
陸氏艸木疏圖解附録

東都　淵在寛　述

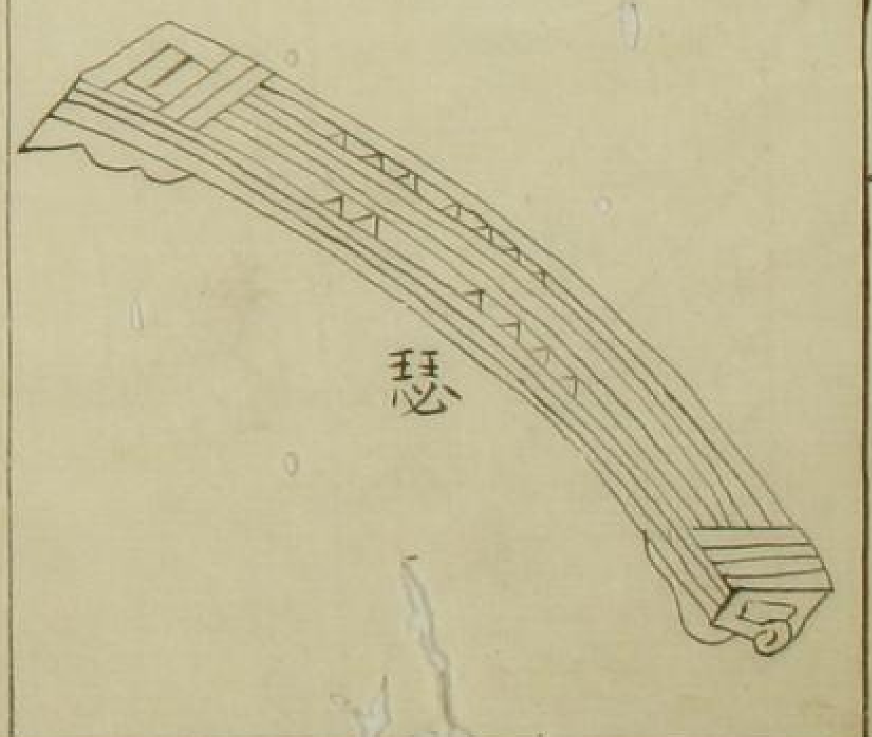
琴瑟友之　周南關雎

琴ハ黄帝ノ作ル処トモ云ヒ又神農或ハ伏犧或ハ帝俊ノ制作ナリトモアリ　琴ニ大中小アリテ小琴ハ五絃中琴ハ十絃大琴ハ二十絃ナリト云ヘリ長サ三尺六寸六分一歳三百六十日ニ象トル廣サ六寸ハ六合ニ象ル上圓下方ナルハ天地ニ象ル徽十三ハ十二律ト閏トニカタトル長サ三尺六寸六分ハ中琴ノ度ニメ八尺一寸ハ大琴ノ度ナリ後ニ周ノ文王少宮少商ノ二絃ヲ加フ或ハ文王一絃ヲ加ヘ武王一絃ヲ加ヘテ二絃ナリトモ云ヘリ後漢ノ蔡邕又二絃ヲ加ヘテ九星ニカタトレリト也

琴



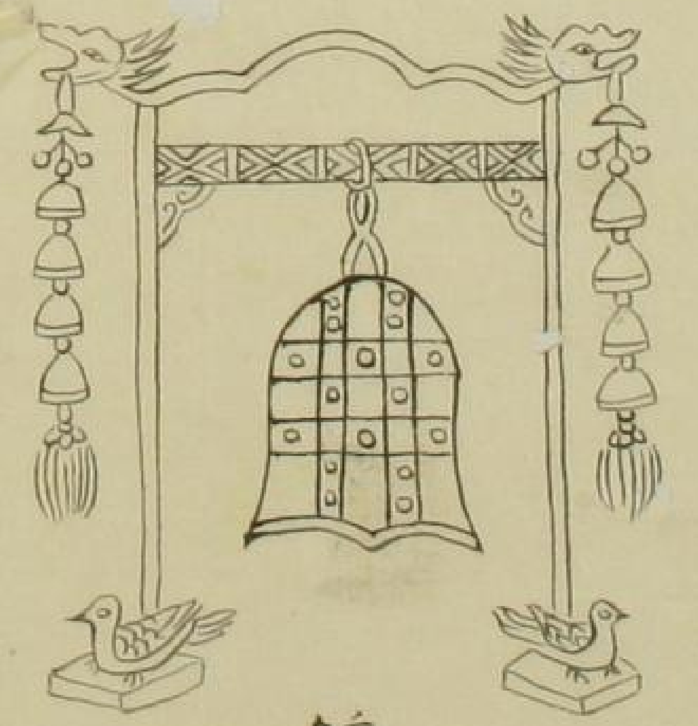
庖犧氏瑟ヲ作ル五十絃
後ニ黄帝素女ニ命ノ瑟ヲ
ヒカセテル、ニ其音モノアハレニ
テキクニタヘラレサルニヨリ
破テ二十五絃トシ二均ノ声ヲ
具シ其状箏ニ似テ大ナリト
云ヘリ



瑟

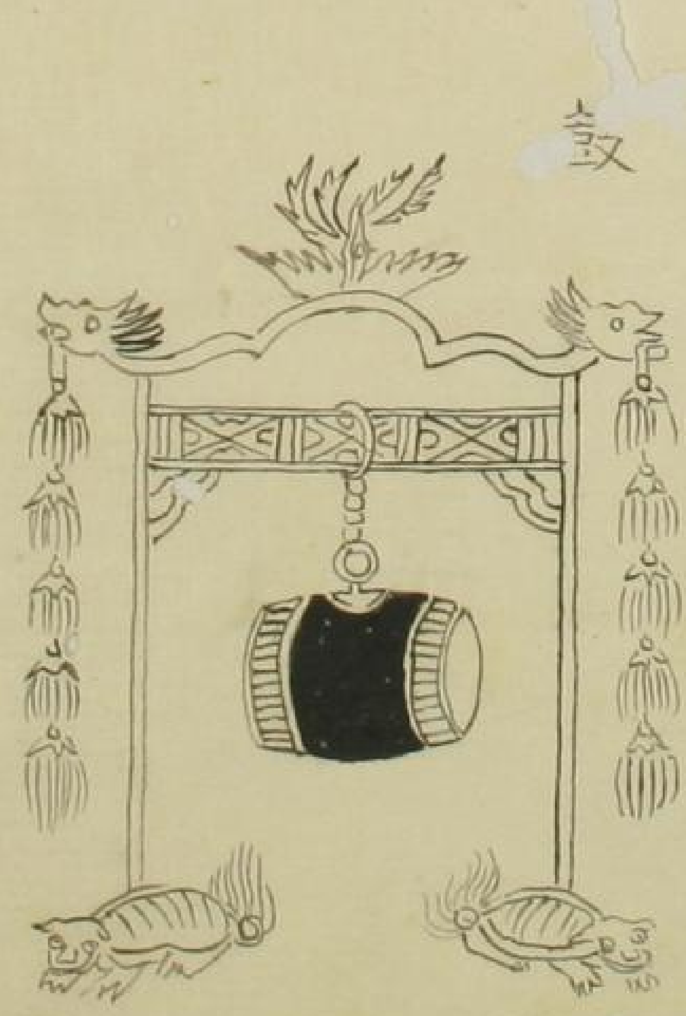
鐘鼓樂之 同上

鐘ハ金ノ屬鏞ハ大鐘ナリ



鐘

鼓

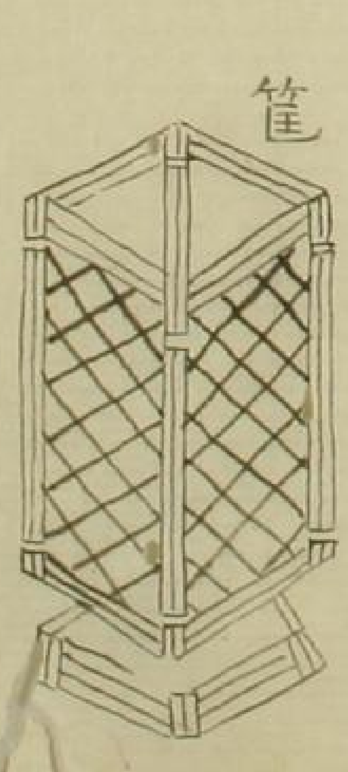


不盈頃筐 巻耳

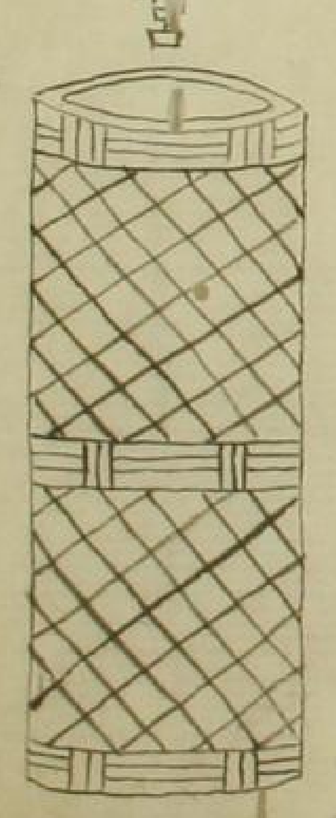
維筐及筥 召南采蘋

筐筥ㇵニ竹器ナリ方
ナルヲ筐ト云ヒ圓ナルヲ
筥ト云頃筐ハ形ノカタ
ムキタルカゴナリ

筐

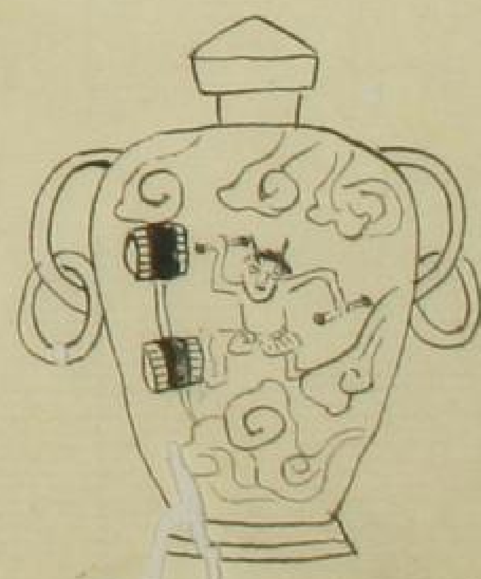


筥



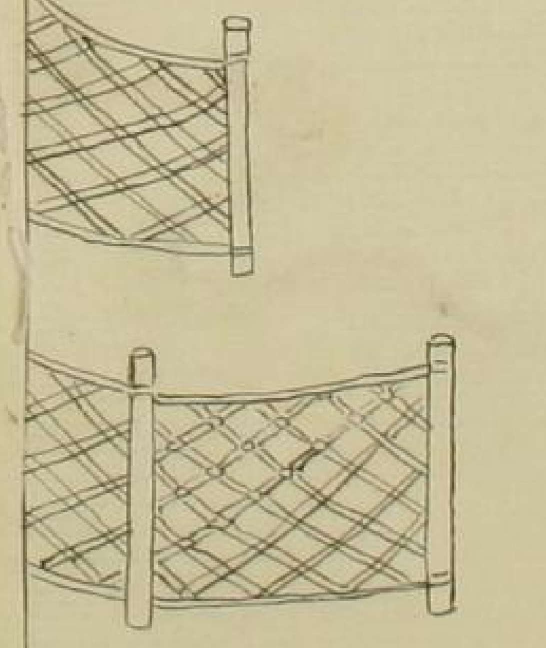
酌彼金罍　巻耳　酌彼兕觥

罍ハ雲雷ノ紋ヲキザミ金ニテカザリタルニヨリ金罍ト云天子ハ玉テ以テ(?)ニカザリ諸侯ハ金ニテカザル
兕ハ獣ノ名兕ノ角ニテコシラヘタルサカツキナリ



肅々兎罝

ケタモノハ網ヲ罘ト云麋ノアミヲ罠ト云兎ノアミヲ罝ト云網ハアミノ總名ニテ物ニヨリテ字ニチガヒアルナリ



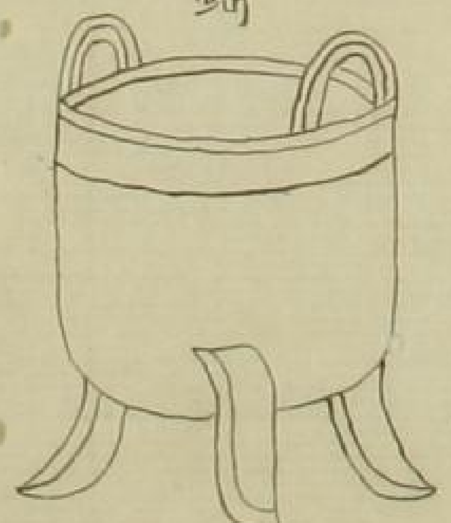
被之僮々　召南采蘩　不屑髢　鄘風君子偕老

被ハ婦人ノ髪ニソヘテ結フモノ也髢モカツラト訓スコノ方ノカモジノ類ナリ

維錡及釜　采蘋

錡ハ足アルカナヘ釜ハ足ナキニロカナヘナリ

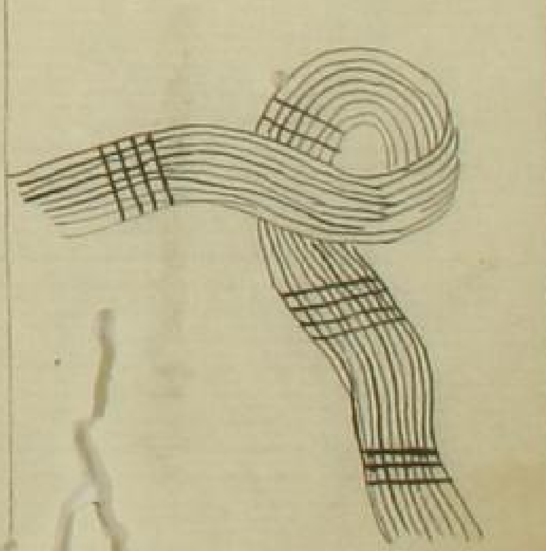
鍑



釜

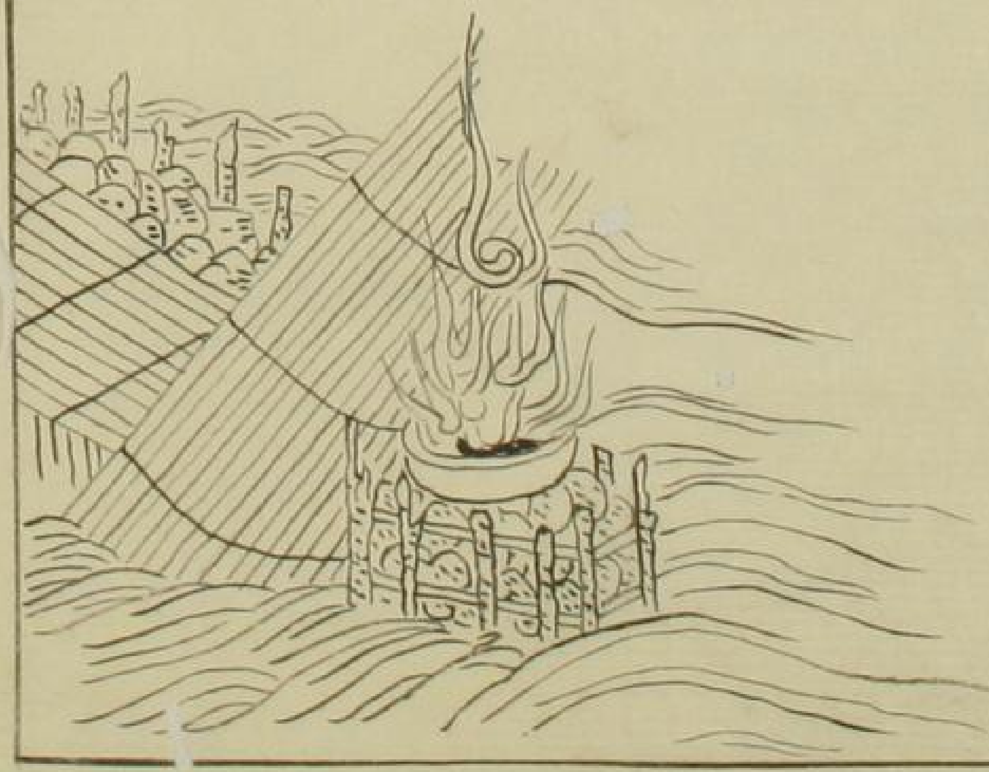
無感我帨兮 野有死麕

禮記ニ婦事フルニ舅姑ニ左ニ佩フ紛帨ヲ
トアリテ帨ハ女ノオビモノニテ
尊者ノタメニ物ヲヌグウ巾也



毋逝我梁毋發我笱 邶風谷風

梁トハ石ニテ水ヲセキトメ
木ヲサヽヘニシ中ヲアケ置
其アケヲキタル処ヘ笱ヲ
アテヽ魚ヲトルモノナリ
上方ナドノ小川ニテモドリ
ト云モノヲ横ニスヘテ魚ヲ
トル此ノ類ナリ

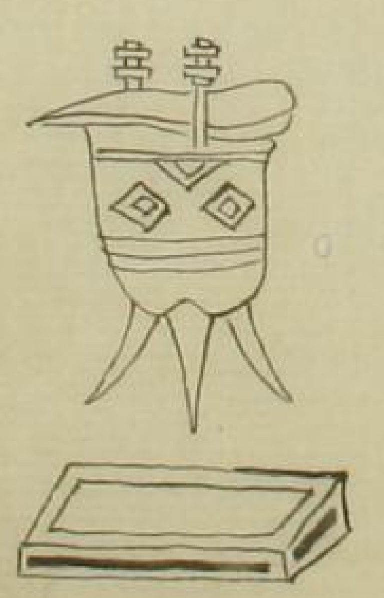


左手執籥右手秉翟 簡兮

籥ハ笛ノ如クニメ六孔ナリ
或ハ三孔ニメ短シトモ云ヘリ

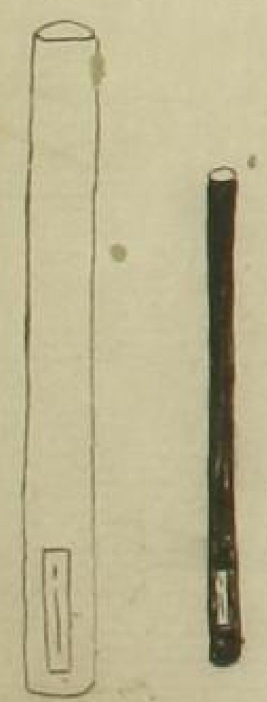
公言錫爵 同上

爵ハ一升入リノサカツキ
ナリ形スヽメニ似タル
ユヘ爵ト云



貽我彤管 靜女

彤ハ赤色管ハ筆ノツヽナリ
又針ノツヽトモ云楽器ニモ管アリ
イヅレトモシレカタシ

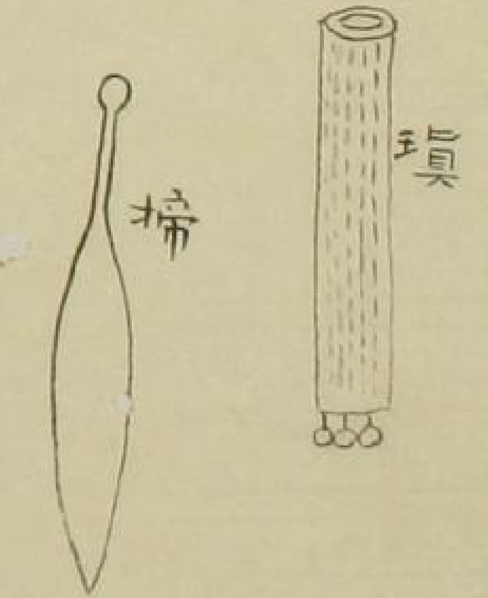


副笄六珈　鄘風君子偕老

副ハ婦人ノ祭礼ニキル冠ナリ笄ハ副ヲサシカタムルカンザシハシ雞ノ形ヲキザム此笄ニ玉ヲ六ツツケルヲ六珈ト云

玉之瑱也象之揥也　同上

瑱ハミヽカ子トリ笄ノ両ハシニ紞ヲタレ其末ニ、カ子ヲツケテ両ノ耳ニアツルヲ衡笄ト云象揥ハザウゲノカミカキナリ

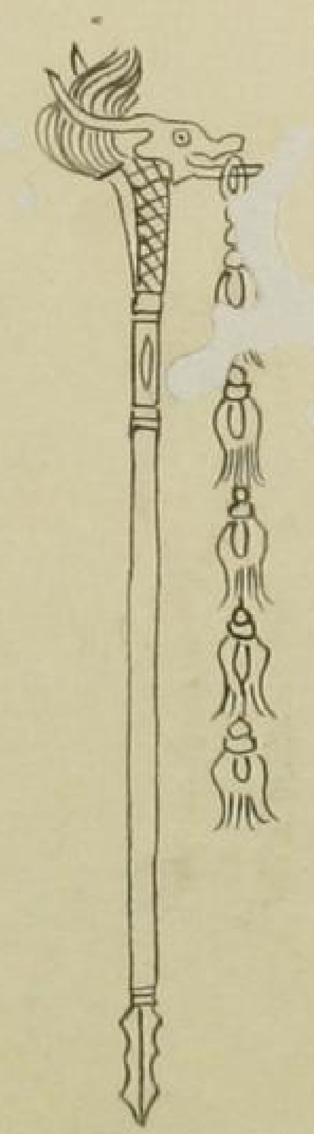


其之展也　同上

展ハ君ノ前ニ出テ又賓客ニアフ時ニキル夫人ノ服ナリ白シトモ云ヒ又赤シトモ云ヘリ

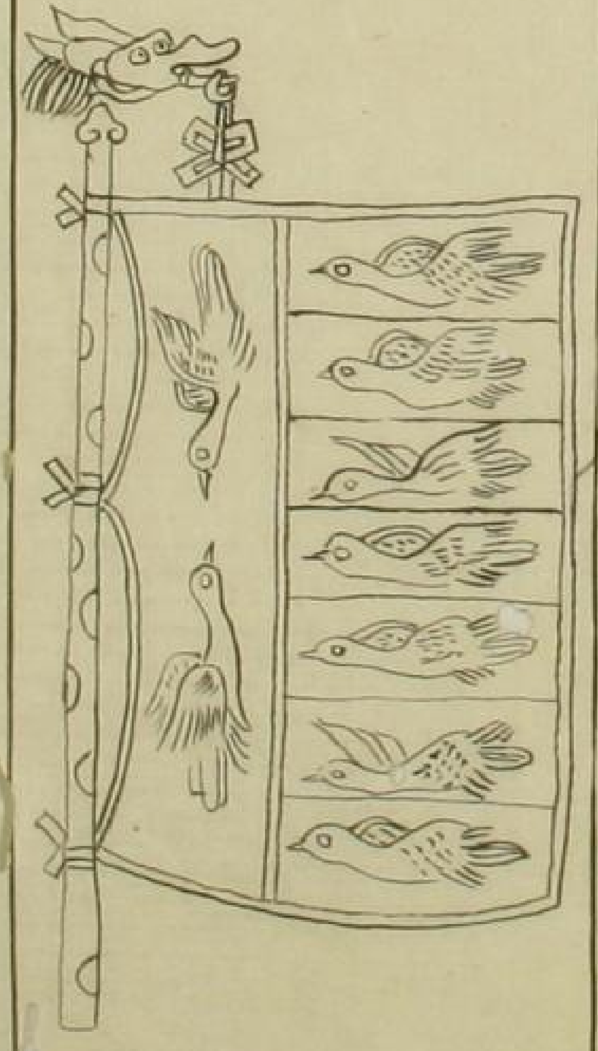
孑々干旄　干旄

干ハ旄ノサホナリ旄ハ旄牛ノ尾ヲ旗竿ノ首ニタレタルヲ云竿ニ旄尾バカリタレタルヲ干旄ト云



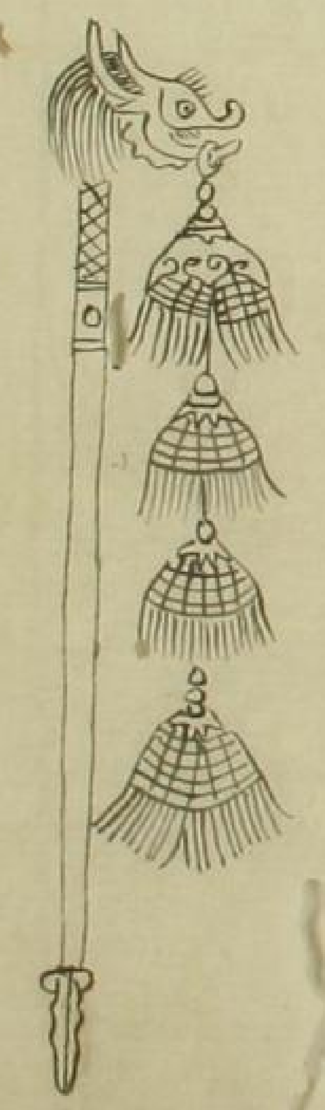
孑々干旟　同上

旟ハハタギヌニ鳥ヲヱカキタルナリ常ニハ旄尾バカリヲタル、ハレノ時ニキヌアルナリ



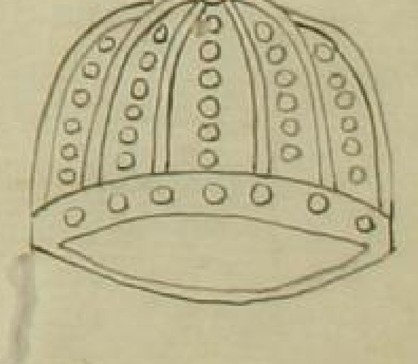
孑々干旌　同上

翟ノ羽ヲ旌サホノカシラニツケタルナリ



充耳琇瑩會弁如星　衛風淇澳

充耳ハカムリノミヽガ子ナリ
琇瑩ハ玉ニ似タル石ナリコレ
ヲミヽカ子ニスルナリ會弁ハ冠
ノ名鹿ノカハ六片ヲ帽ノ如クヌヒ
合セヌヒメコトニ玉ヲ七ツヽ付テカザリトス

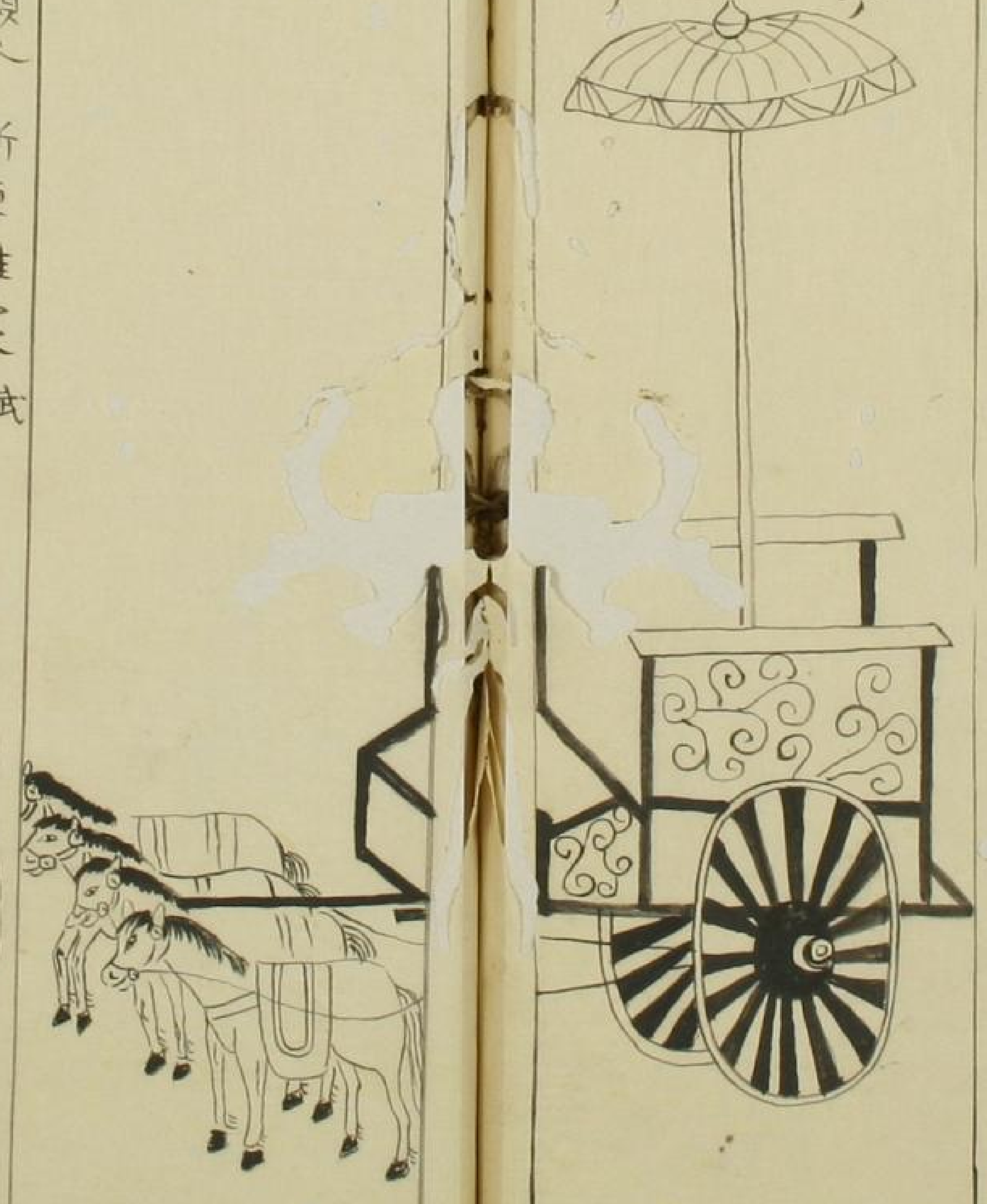


加圭如璧　同上

圭璧ハ符瑞ナリ　會合ノ時
又ハ使ヒヲ通スル時ニシルレトス
圭ハカシラトギテ下ハ方ナリ璧
ハマロクソ中ニアナアリ　玉ニテ
ツクルト云ヘリ

猗重較兮　同上

重較ハ卿ノ乗ル車ナリ車ハ輿ノ
両旁ニ箱アリ　両箱ノ前ノ方ニ
ホウ立アリコレヲ輢ト云両輢ノ
上ニアル横木ヲ較ト云重較ハ較
ヲカサ子タルヲ云ナラシト云ヘリ



朱幩鑣々翟茀以朝碩人　衛風碩人

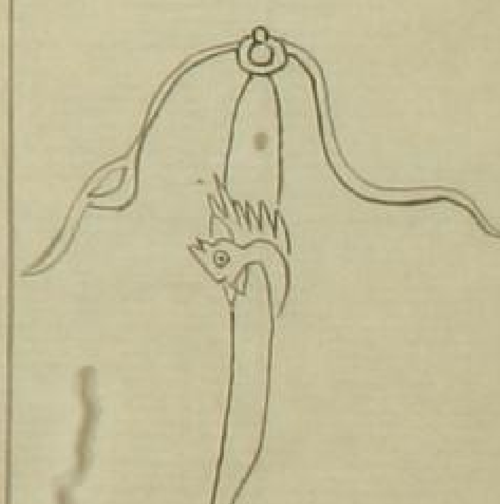
翟茀トハ茀ハ車ノカコヒキジノ
羽ニテカザル婦人ノ車ナリ朱幩
ハ赤キイトニテ幩ヲマキカザリ飾
シ云

漸車帷裳　氓

帷裳ハ車ノシタスダレナリ

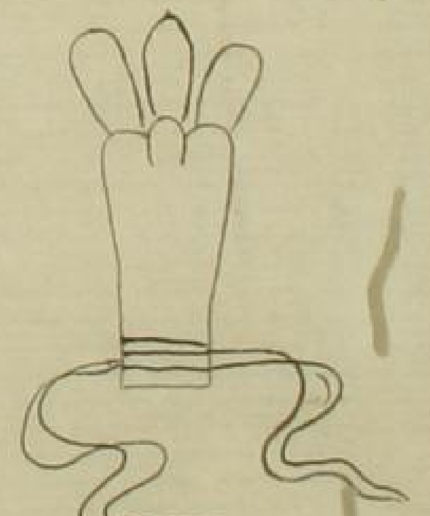
童子佩觿 芄蘭

觿ハカタチ錐ノ如シ象牙ニテ作ルムスボレヲトクモノナリ



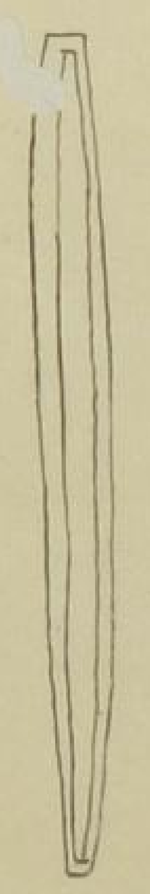
童子佩韘 同上

韘ハ韋ニテツクリ右ノ指ニツケテ弓弦ヲヒクモノ也ユガケト云



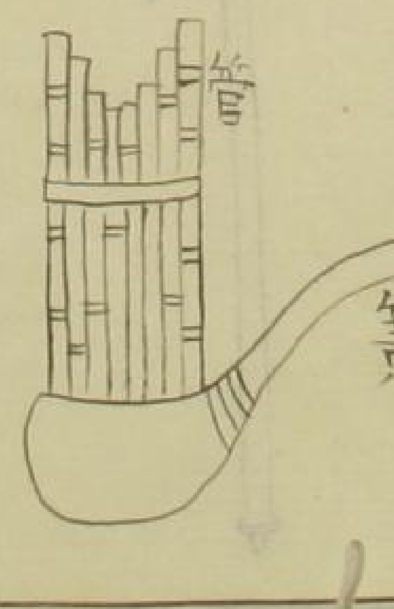
伯也執殳 伯兮

殳ハ竹ヲハリテ八角ニツカ子長サ一丈二尺ニメ人ヲウツモノニテ刄ナシ



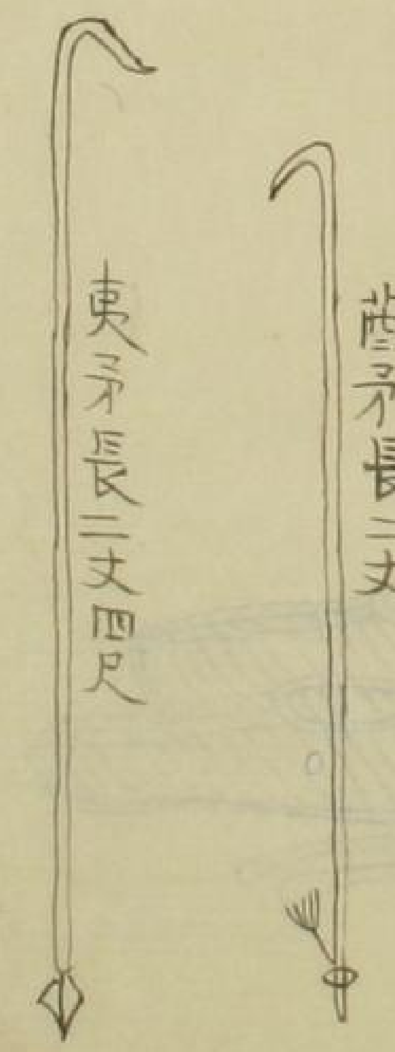
左執簧 王風君子陽々

笙簧ハ笙ノ舌ナリ ハサレ𪜈此ニテハ笙竽ノ通稱トナル笙ノ長サ四寸十三ノ簧ハ鳳ノ身ニカタトルト世本ニミヘタリ



二矛重英 清人

二矛ハ下ニミヘタリ英ハ赤キ羽ヲ二ヲオノカザリトスル丁ナリ車ノ上ヘニナラベ英甚上下ニカサナリテミユル其重英ト云

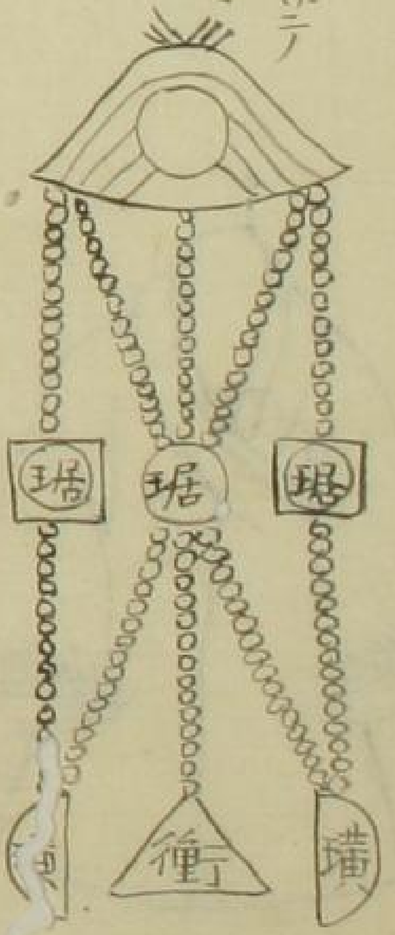


羔裘豹飾 羔裘

豹ノカザリトハ豹ノ皮ヲ以テ袖口ノヘリトヲレニスル丁也羔ノ衣ナリ

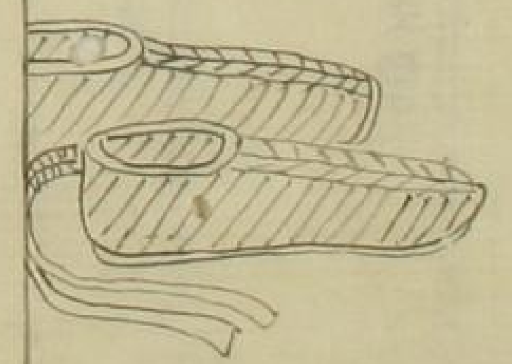
雑佩以贈之 女日雞鳴

雑佩ハ左右ノ佩玉ナリ 上ニ横ルヲ珩ト云 三組ヲ繋テ貫クニ蠙珠ヲ以ス 中ノ組ノ半ニ瑀ヲツラヌキ末ハ衝牙ヲカケ 両旁ノ組各ニ琚璜ヲカク 又両組交ニ瑀ヲツラヌイテ上ハ珩ヲ繋キ下ハ璜ヲ繋ク 行クトキハ衝[illegible]ニ觸レテ聲アリ



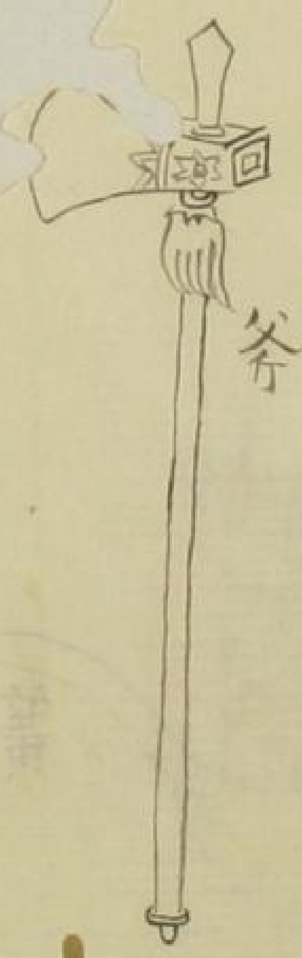
葛屨五両 齊風南山

クズヌノニテ作リタル 夏ノクツナリ 五両トハ五対ナリ



匪斧不克 同上

斧ハ鉞ノ小ナルモノナリ

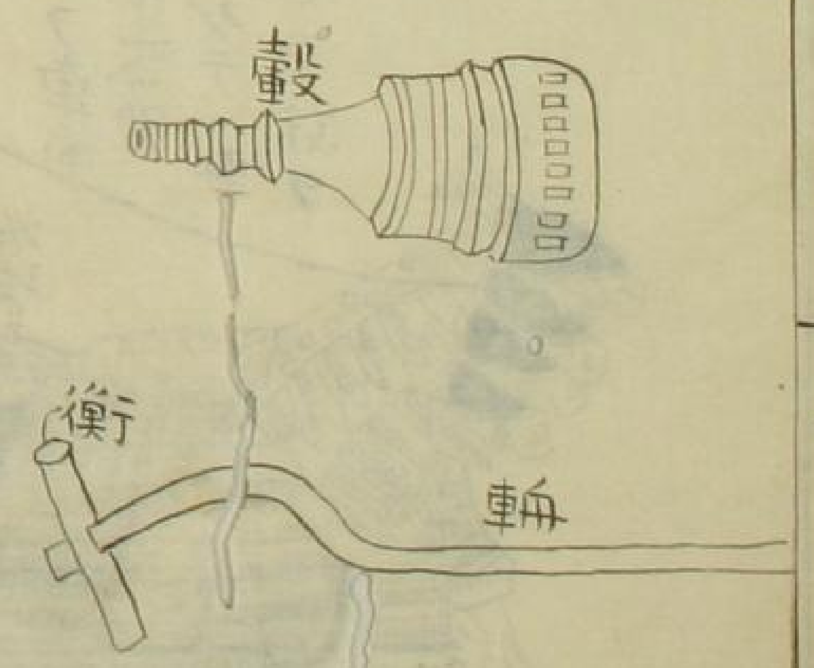


小戎 俴收 秦風

戎ハ兵ナリ イクサ車ナリ 小戎トハ天子ノ兵車ト云ニヨリ 其外ヲ小戎ト云 又凡ソ車ノ制 廣サ六尺六寸 輿ノ深サ 大車ハ八尺 兵車ハ四尺四寸 車ニノルハ後ヨリメ其入ル処 大車ハ深ク小車ハ浅シ 故ニ俴收ト称 五楘トハ童ノナガエヲ五ツ処皮ニテマクコトナリ 輈ハ一ツニメ両服ノ間ニアリ 中高クソリテ梁ノ如クナルユヘ梁輈ト云 ○游環ハ皮ヲ環トメ四馬ノタヅナヲ通メ御者ソノ端ヲトル 此ノ環上下スルニヨリ游ト云 ○脅驅ノ皮ニスジヲ衡ノ両端ニツケテ跡ヲ車前ノ軾ニカク コノ皮服馬ノ外ニアリ ソレ馬ノ内ヘコミ入ルヲサヽユルユヘ脅驅ト云 ○陰靷トハ 陰ハ陰板ナリ 輿ノ前ニカケテ軓ト云板ヲソバダテ軓ノ上ヲホウユヘ陰ト云 靷トハ皮ニスジヲ以テソヘ馬ノ頸ニツケテ跡ヲ陰板ニカケ 両驂ノ車ヲヒクハコノ皮ナリ

文茵暢轂 同上

文茵ハ車ノ内ニシク虎ノ皮ノシトネナリ 轂ハ輪ノ三中ニアリテ外ニハ輻ヲサシ内ニハ軸ヲツラヌク[illegible]大車ノ轂ハ一尺五寸 戎車ハ三尺二寸故ニ暢轂ト云



虎韔 同上

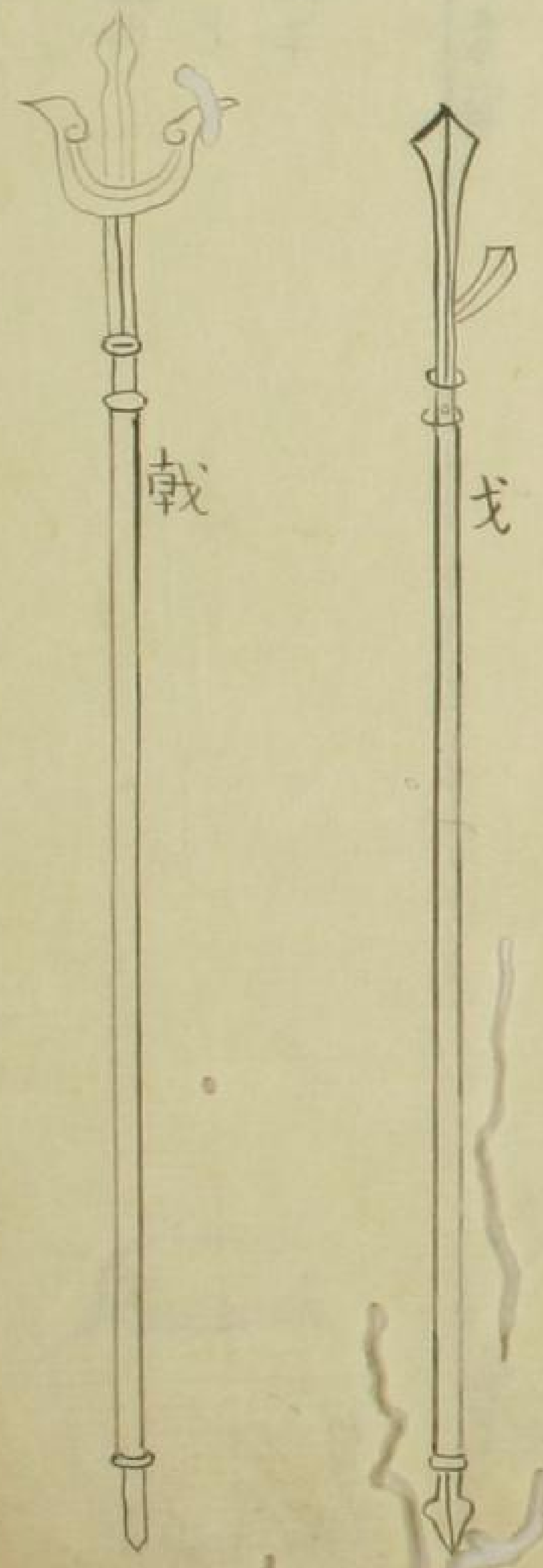
トラノ皮ニテハリタル弓ノサヤナリ

錦衣狐裘 終南

狐ノ白毛ヲ裘トシ白キ錦ノキヌヲ裼衣トス 諸侯ノ服ナリ 裼ハ裘ノウハヲソヒナリ

脩我戈矛 無衣

脩我戈戟 同上

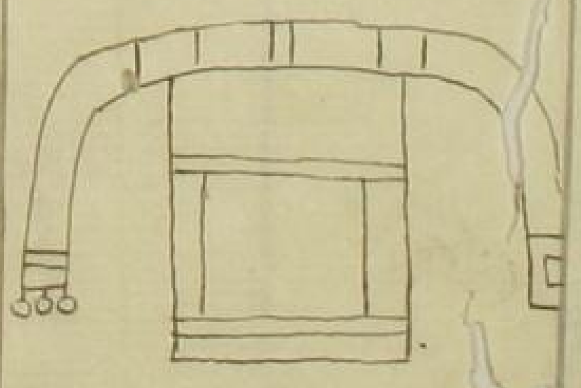


坎々撃缶　陳風宛丘

缶ハ瓦器ニメ酒漿ヲ盛ル
モノナリ秦人歌ヲ節スト
字彙ニミヘタリ　楽ノ拍子
ヲウツモノナリ

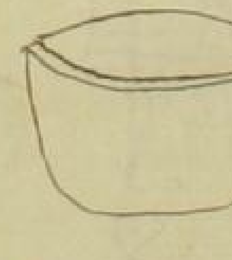
庶見素韠兮　檜風素冠

韠ハ礼服ノ前ニタレ　ヒザオホヒ
韋（ランカハ）ニテ作ル素韠ト云ハ衣裳モ
白



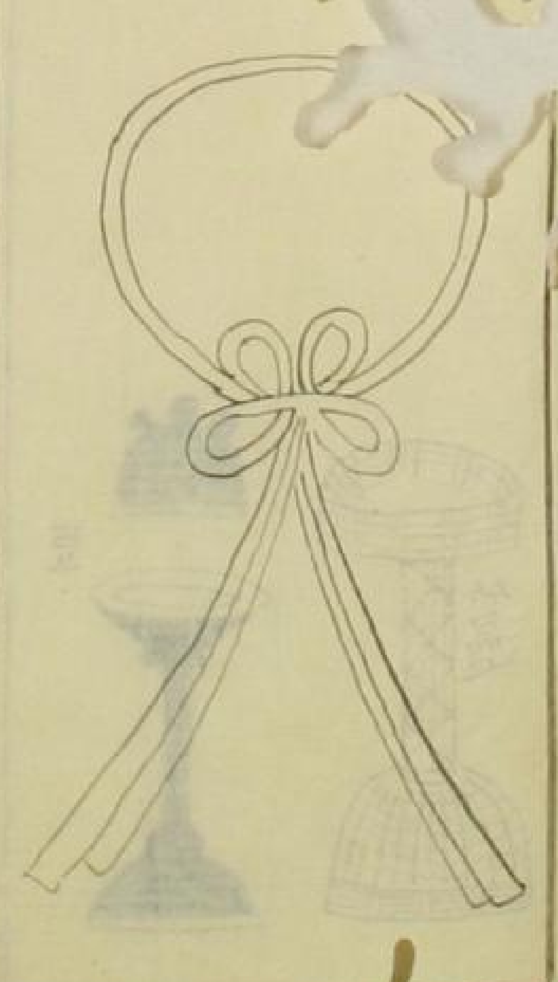
溉之釜鬵　匪風

釜ハカ[illegible]鬵ハ上ニ
大ニメ下モ小ナリ釜ノ
類ニメ大ナリ



其帯伊絲　曹風鳲鳩

帯ハ大帯ナリ其制素キ
子リキヌニテ作ル位ニヨリ
テヘリノカザリ別ナリ　コヽニ
絲ト云ヘルハ絲ニテヘリアルキヌ也



三之日于耜　豳風七月

耜ハ耒耜ナリ　古ノ田ヲ
カヘス器ナリ　柄ヲ耒ト云
サキヲ耜ト云

稱彼兕觥　同上

毛傳ニ兕觥ハ角爵也箋ニ云
觥ハ罰爵也兕牛ノ角ニテ
作リタルサカツキ也

親結其縭 東山

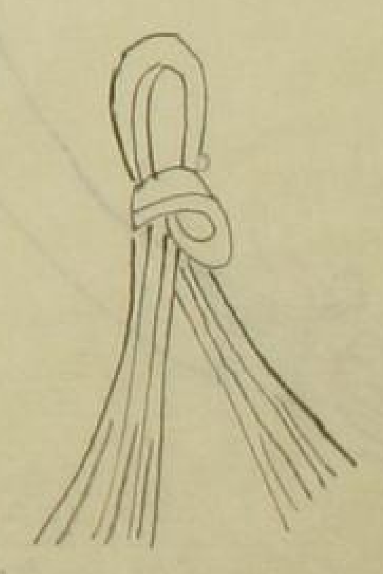
縭ハ帨巾ナリ女子
嫁メ出ル時母女子
ノ帨ヲムスビツケテ戒
ムルヿ常ノ礼ナリ

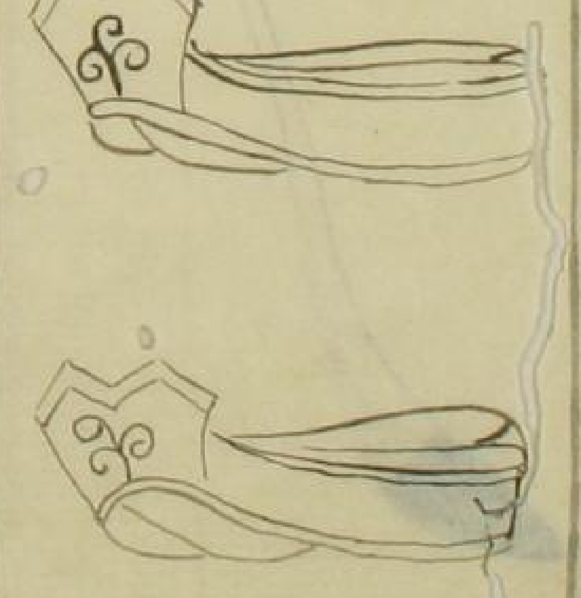
赤舄几々 狼跋

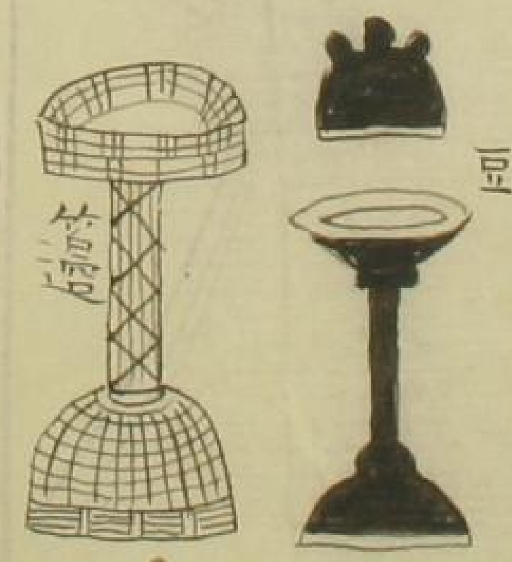
舄ノクツハウラニ木ヲ
ツケテハク赤舄ハ礼服
ノクツナリ

儐爾籩豆 小雅鹿鳴

籩ハ竹ニテツクル果核
ヲスヽムルニ用ユ
豆ハ木ニテツクル菹醢
ヲスヽム







象弭魚服 小雅采薇

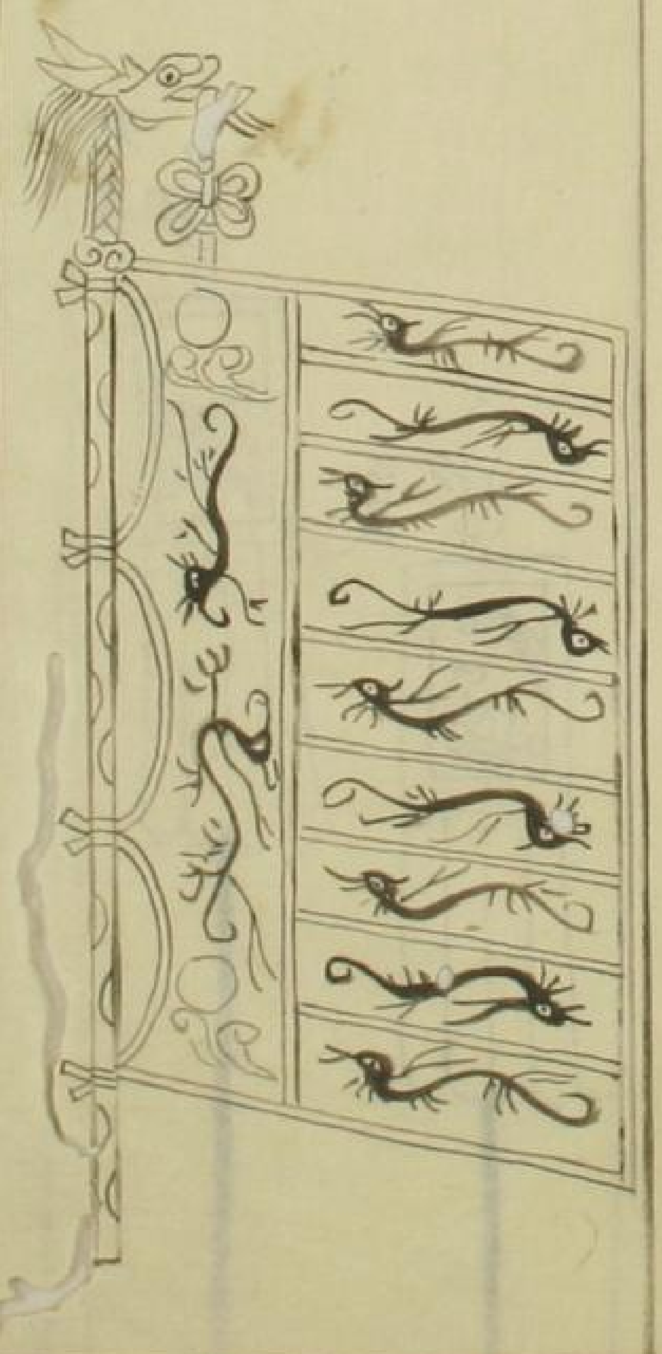
魚ノヿハ前ニ出タリ
魚皮ヲ用テ箙ニシタ
ルヲ魚服ト云

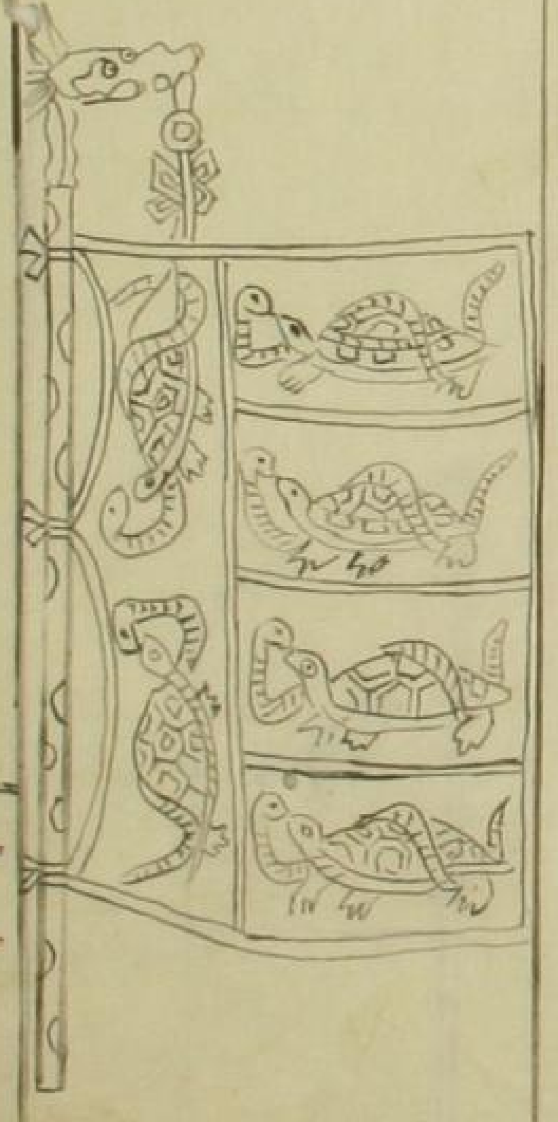
旂旐央々 出車

旂ハ交龍ヲヱガ
ケルハタノ名青
龍ノハタト云

設此旐矣 同上

旐ハ亀ト蛇トヲ
ヱカケルハタ玄武
ノハタト云



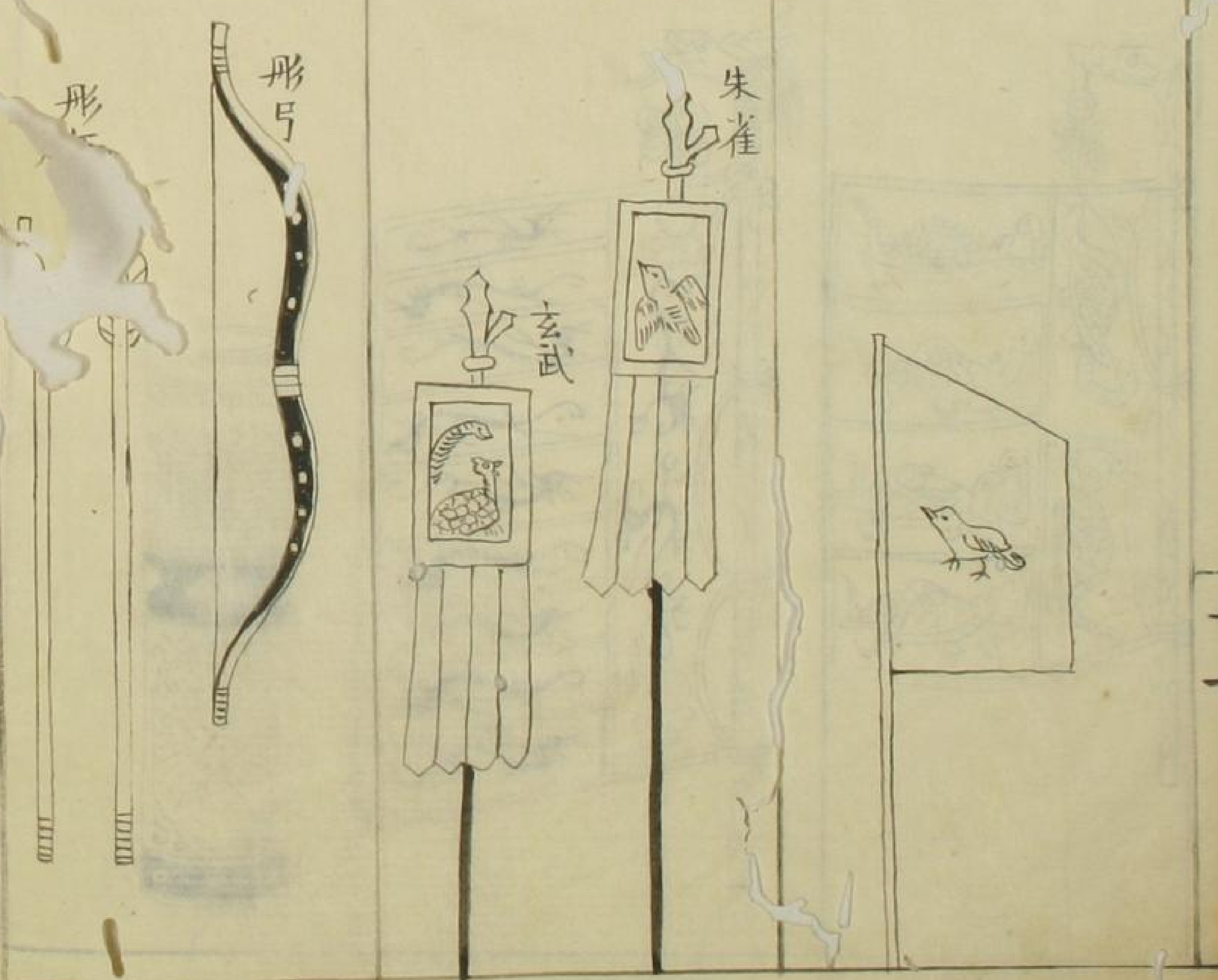


織文鳥章白斾央々　六月

織ハ幟ト同シ小旗ナリ　鳥章トハ鳥ヲエガキタルヲ云　白斾ハ旗ノハタ末ニ赤キキレヲツギテ尾ニシタルヲ朱雀玄武ハタモ云ヘリ

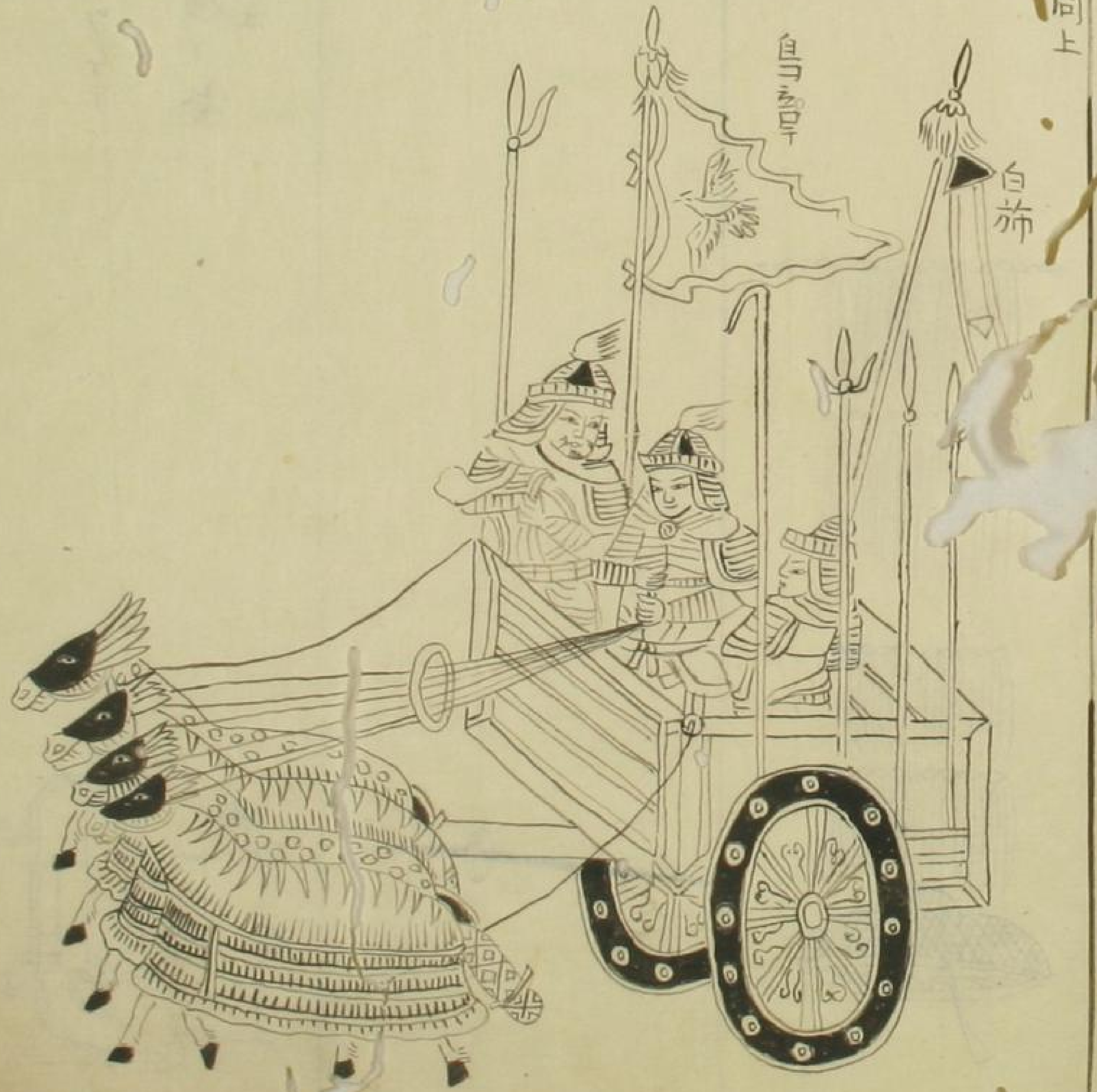
彤弓弨兮　彤弓

彤ハ赤色ナリ　彤弓ハアカクヌリタル弓也



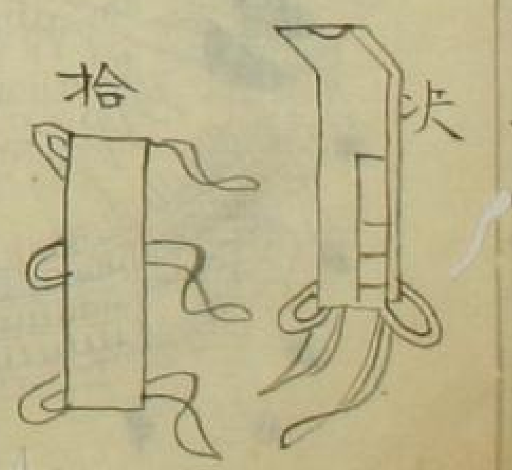
元戎十乗以先啓行　同上

元ハ大ナリ大車ナリ元戎ハ甲士三人ノル左ハ弓ヲ持右ハ矛ヲモチ中ハ御者ナリ　先陣ノ大車ト両ヲ押立テ道ヲヒラクセ



決拾既佽　車攻

決ハ象牙ノ環ヲ右ノ大指ニツケテ弦ヲカケヒクモノ也ユガケト云
拾ハ韋ニテ左ノ臂ノ内ニツケ袖ヲシボリテ弦スリシフセタユゴテト云

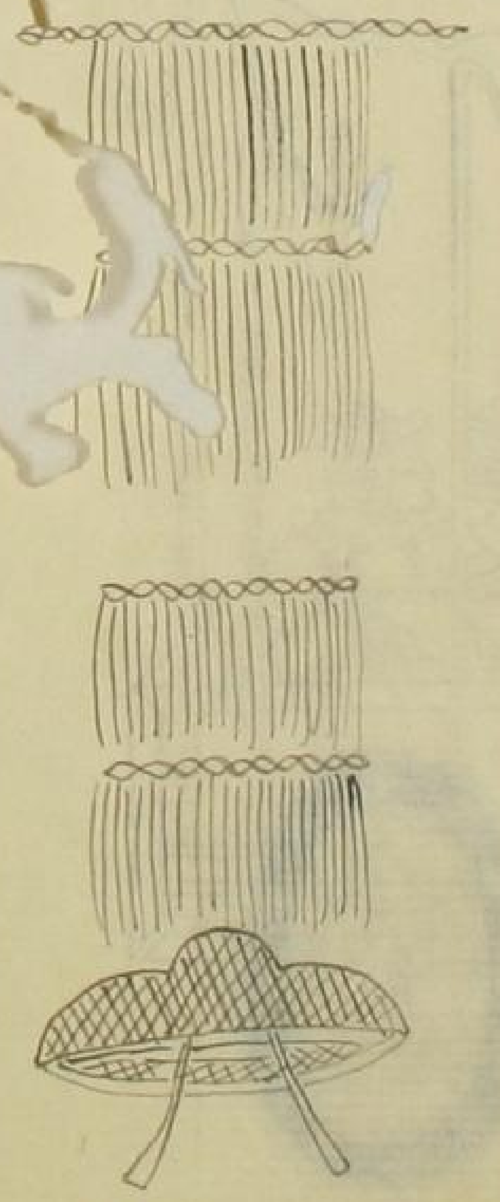


載弄之瓦　斯干

瓦ハイトヲヨルニ用ユル具ナリツヽト云

何蓑何笠　無羊

雨ノ（ノ）セタ具ナリ



伯氏吹塤　何人斯

塤ハ土ヲ大サ鵝子ノ如クロトガリ底平ラカナリ六孔アリ手コスヘテ吹ク

仲氏吹篪　同上

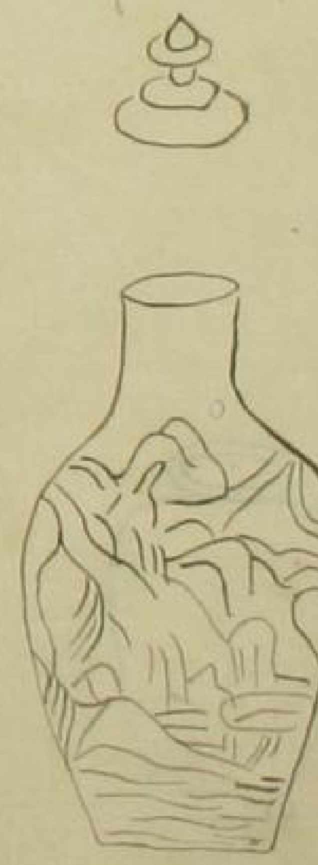
篪ハ八孔ノヨコフヱ

缾之罄矣

缾ハカメト訓ス罍ノ小ナルモノ酒器ナリ

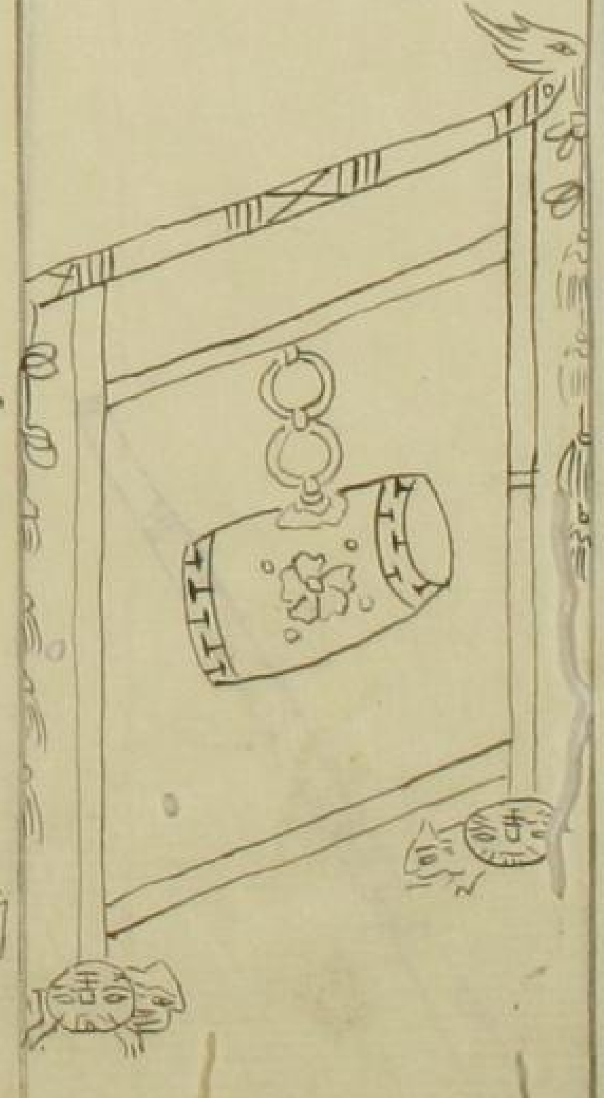
維罍之恥 同上

[…]イル、モノナリ
[…]ニ出タリ



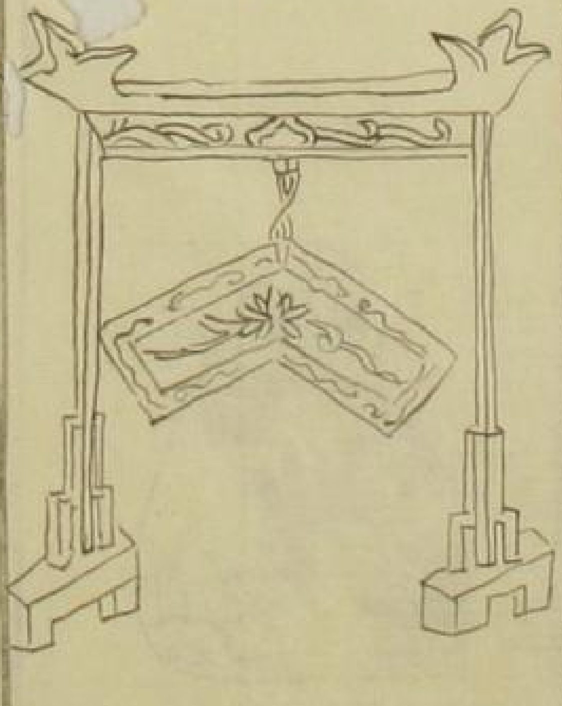
鼓鐘伐鼛 鼓鐘

鼛ハ太鼓ノ大ナルモノナリ



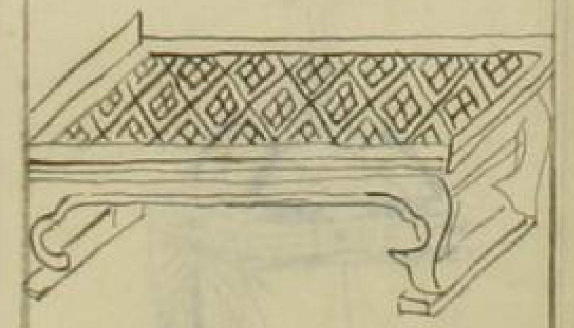
笙磬同音 同上

磬ハ堂下ノ樂ナリ 石磬玉磬方磬アリ



爲俎孔碩 楚茨

俎ハツキエト訓 牲ヲノスル器ナリ

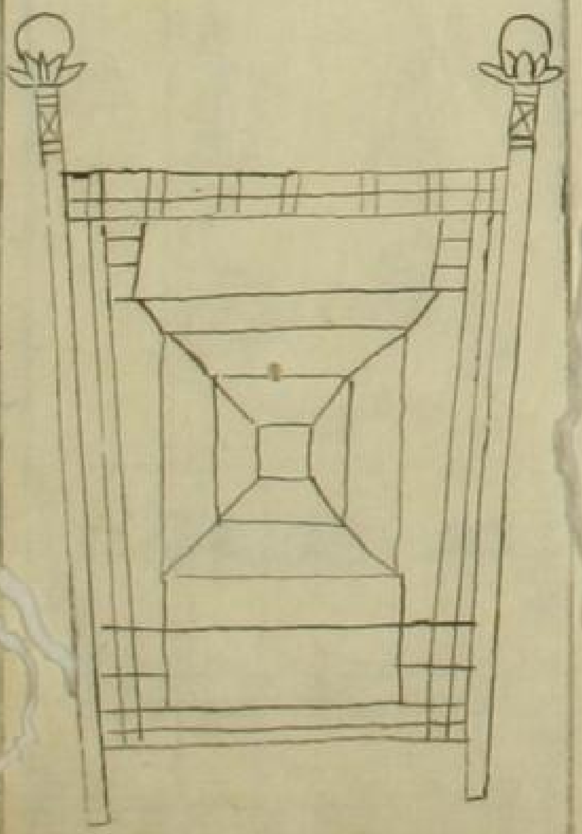


鞞琫有珌 瞻彼洛矣

鞞ハ刀鞘ナリ 琫ハサヤクチ 珌ハ公ジリノカガリ 天子ハ玉ミテツクル 兵車ノ服ナリ

大侯既抗 賓之初筵

大侯ハ居ノ侯ナリ ヤニカタト訓ス侯ノ高サ一丈其三ニシテ中ヲ的トス三分ノ四方ナリ天子ハ熊侯的ヲ白クメ熊頭ヲヱカク諸侯ハ麋侯赤地ニメ麋頭ヲヱカク 的ヨリ外ハ丹地ニメ雲気ヲヱカク

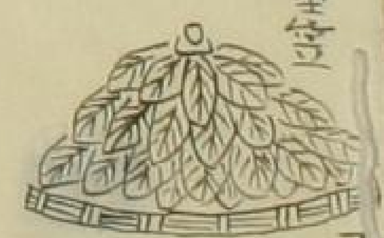


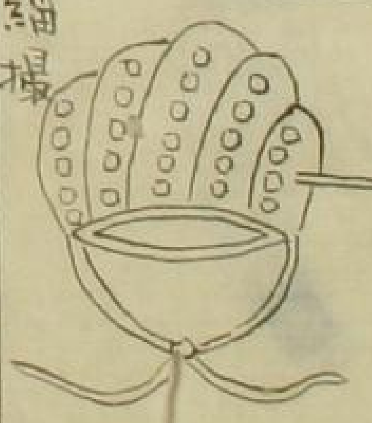
玄衮及黼 采菽

玄衣ニ衮龍ヲエガキタルナリ黼ハ斧ノ形ヲ裳ニヌイツク諸公ノ服ハ衮冕九章ナリ此ニハ冕ヲ畧ス九章モ上下ニアゲテ中ヲ畧セリ

臺笠緇撮 都人士

臺ハスゲナリ緇撮ハ名キ布ニテ作リタルチイサキ冠ナリ



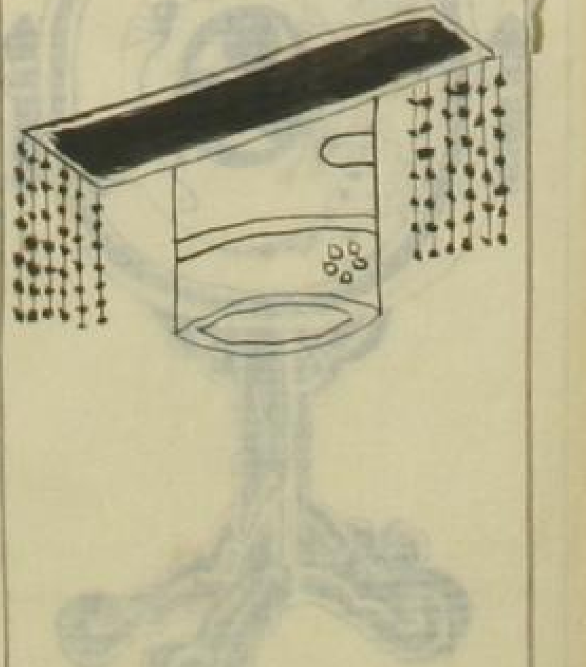


我任我輦 黍苗

輦ハテクルニ人ノヒク車ナリ

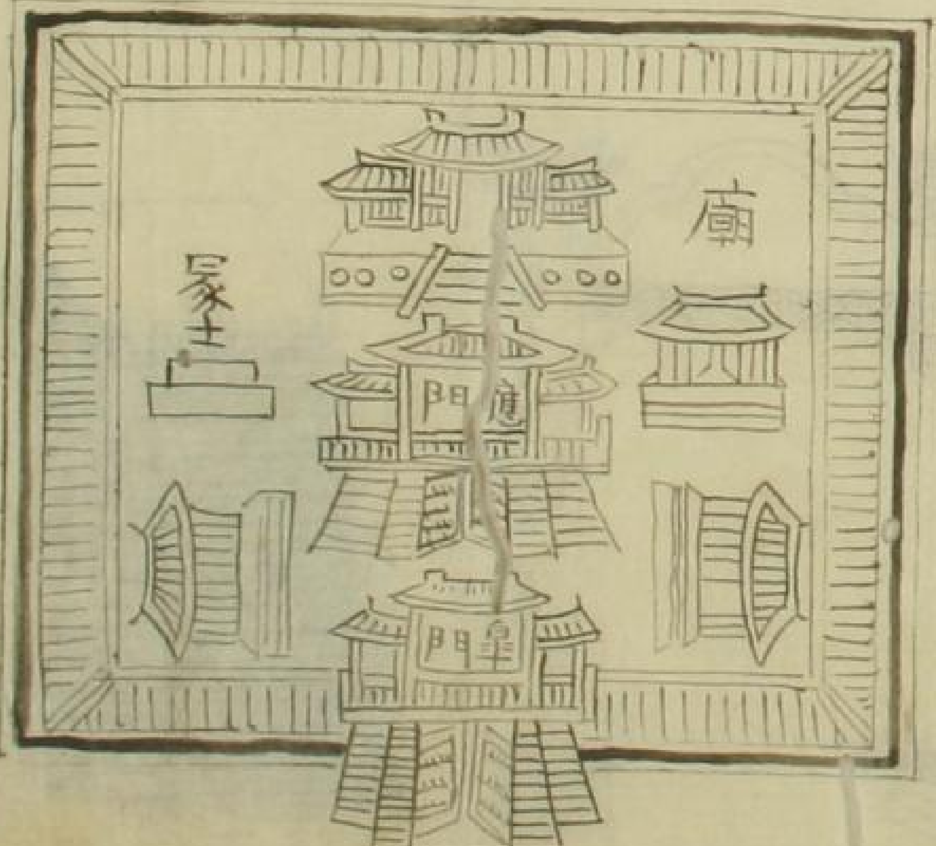
常服黼冔 大雅 文王

冔ハ冠ノ名殷ニハ冔ト云ヒ周ニハ冕ト云黼冔ハ黼裳ニ冔冠ナリ



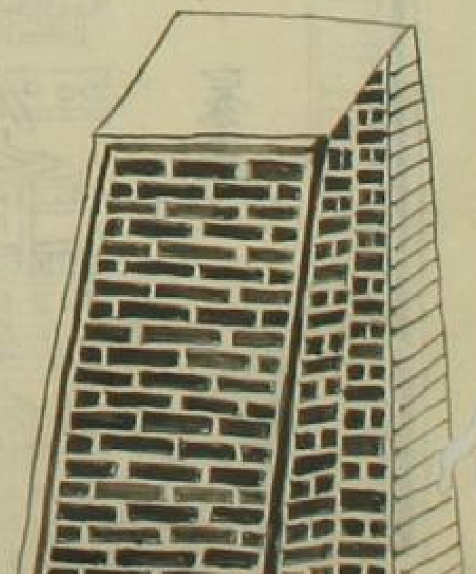
迺立皐門 緜

城ノ外門ヲ皐門ト名ツク宮室ノ正門ヲ應門ト名付ク大王始メテコノ二門ヲ立武王ノ時コレヲ天子ノ門ト号トス



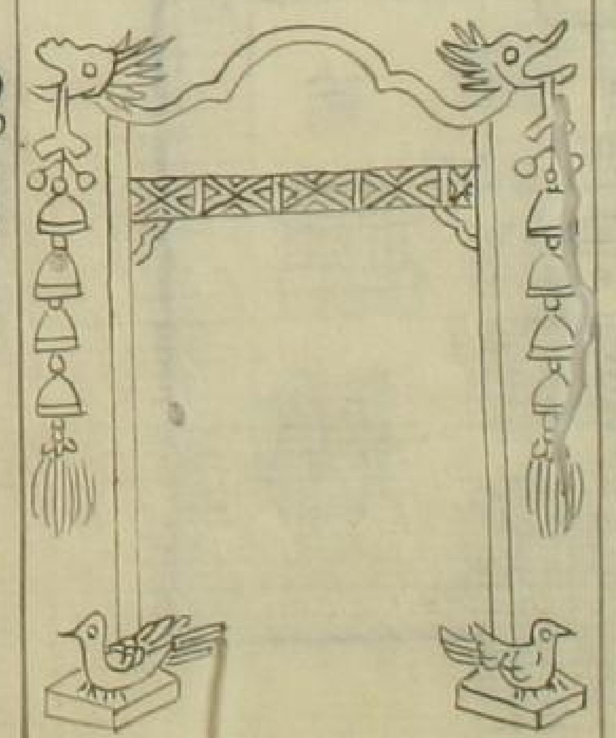
經始靈臺 靈臺

靈臺ハ文王ノ作ル処天象雲氣ヲ察シ又遊觀ノ臺ナリ



虡業維樅 同上

虡ハ木ヲ両旁ニ立テ、樂器ヲカクルモノ横木ヲ栒ト云業ハ栒ノ上ニ板ヲキザミテカザリトスルヲ云樅トハ又ソノウヘノ物ヲカクル処ニ緑色ニメ立アカリタル飾ナルヲ云

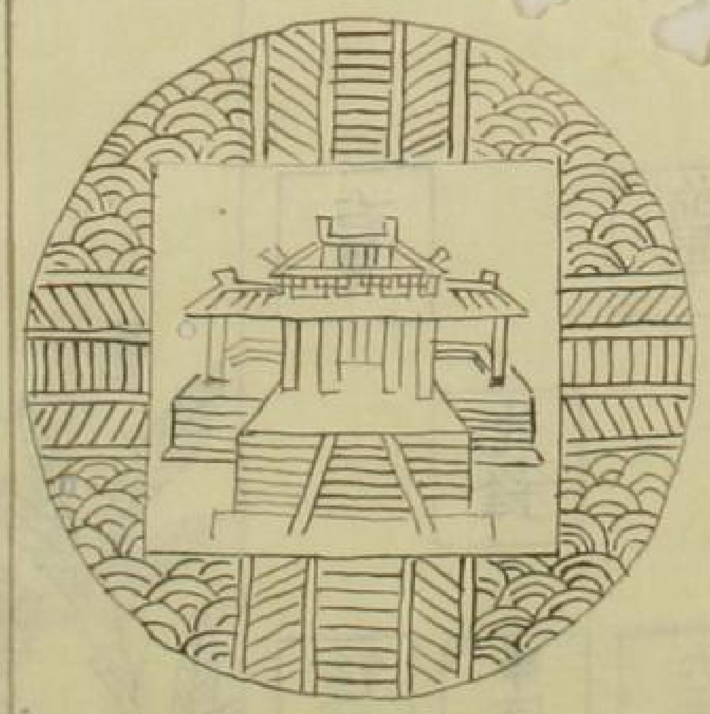


賁鼓維鏞 同上

賁鼓長サ八尺径リ四尺ノ太鼓ナリ鏞ハ大鐘ナリ

於樂辟廱 同上

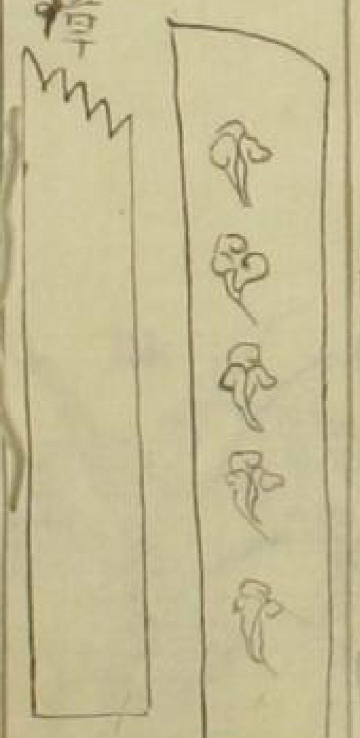
辟ハ璧ト同ジモト玉ノ名ナリ外圓ヲ内方孔アリココニ辟廱ト云ハ文王ノ學宮ナリ後ニ天子ノ樂ノ名トスコノ宮ニ射礼ヲナラヒ音楽ヲモ講スルナリ



如圭如璋 巻阿

圭ニ信圭桓圭躬圭アリ牙璋ハ軍旅ヲ起ス

璋



錫爾介圭 崧高

介圭ハ大圭ナリ諸侯ノ封セラレタルシルシニナル処ノ玉圭ナリ又ノ説ニ諸侯ハ桓圭ヲトル長サ九寸介圭ハ一尺二寸王者ノ圭ニメ諸侯ノ命圭ヲウズコレヲ天リテ国寶トナサシム

大圭

桓圭

釐爾圭瓚 江漢

玉瓚 圭瓚アリ 玉ヲ三ツ柄ヲソクリタルヲ玉瓚ト云爵鬯ノ酒ヲツグモノ也

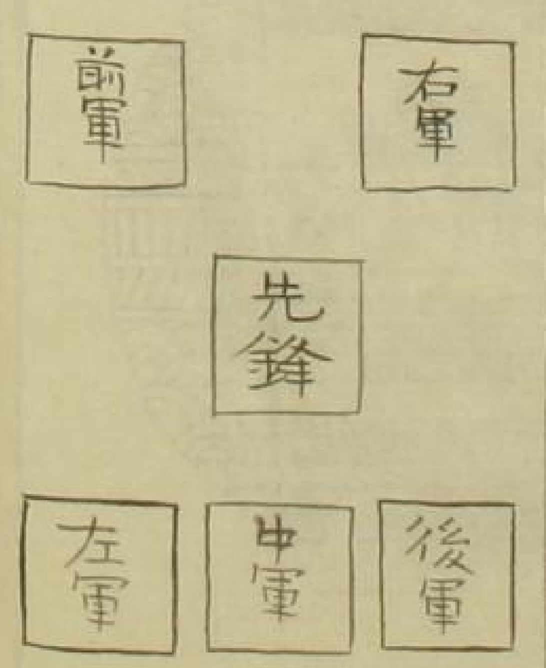
秬鬯一卣 同上

秬鬯ハクロキビヲカモタ爵金艸ヲツキテニボリ汁タマゼテ酒トシタルヲ云

整我六師 常武

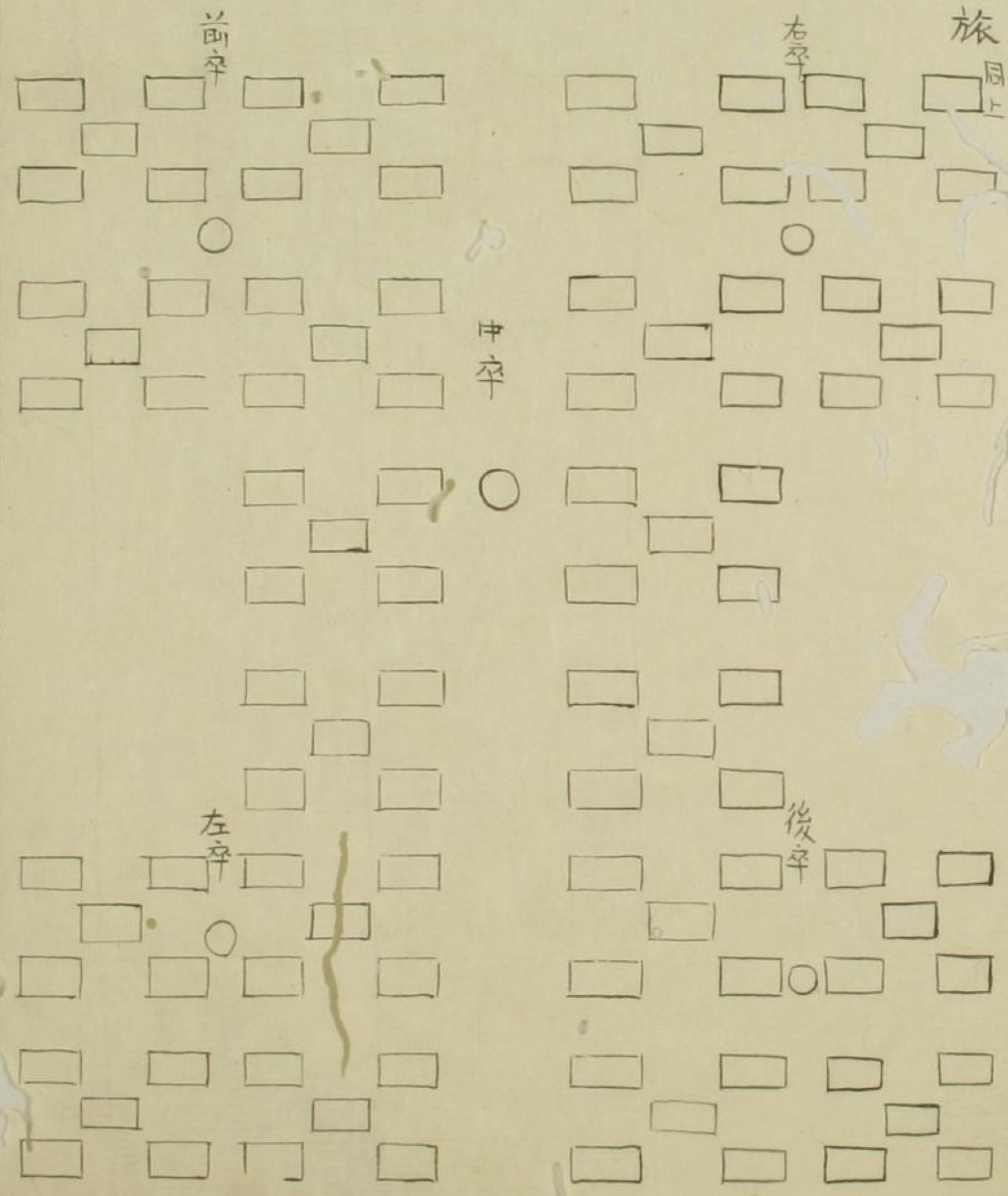
六師ノ天子ノ六軍ナリ

周礼天子六軍ノ圖

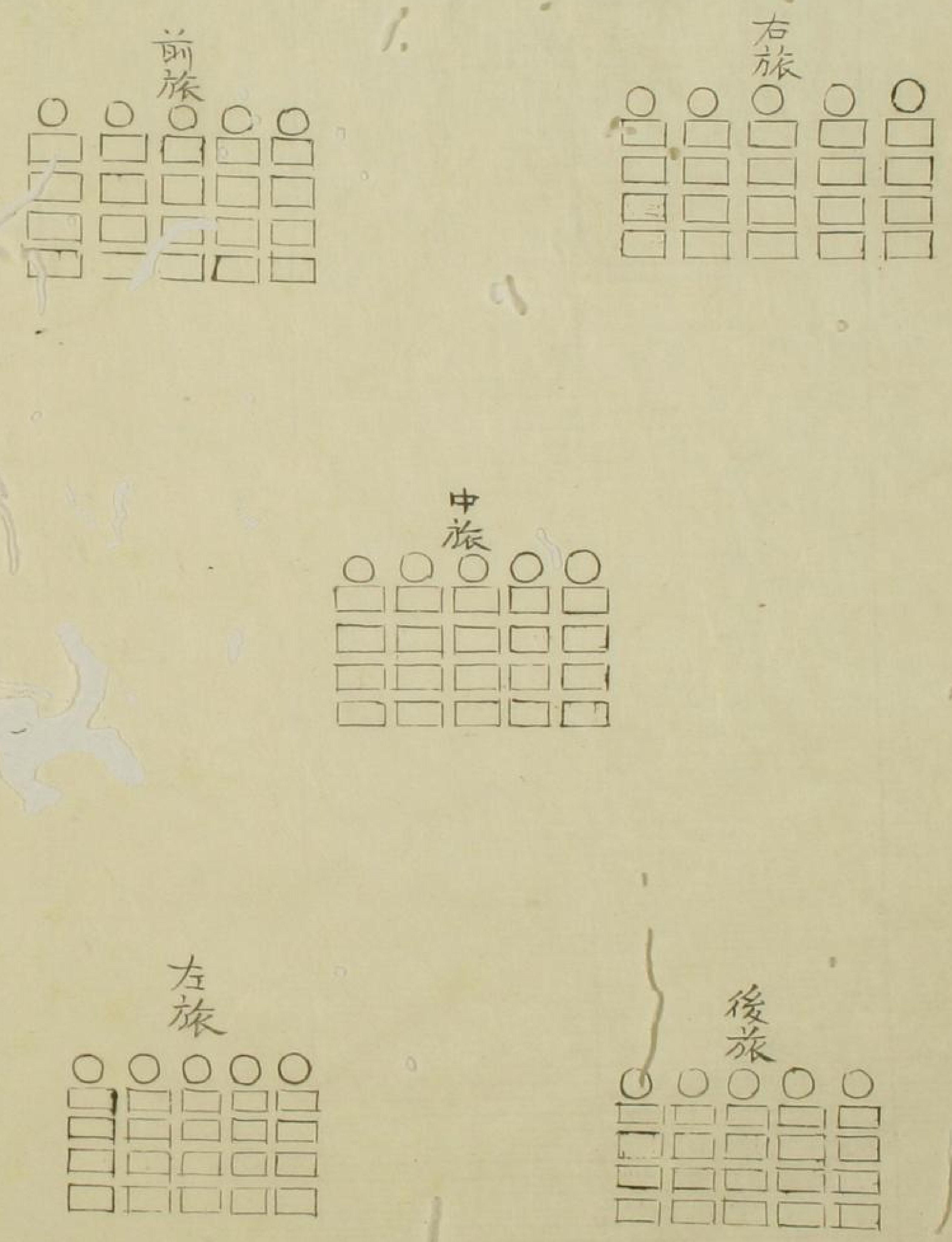


戒我師旅 同上

周禮 五百人ヲ旅トスルノ圖



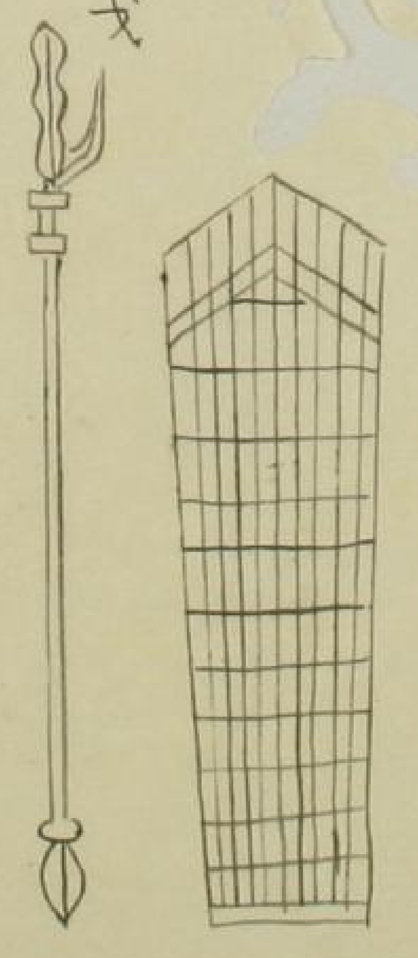
同 二千五百人ヲ師トスルノ圖



干戈 公劉

干ハタテナリ 關ヨリ東ハ干ト云ヒ西ハ楯ト云 戈ハホコナリ 柲江ノ長サ六尺六寸

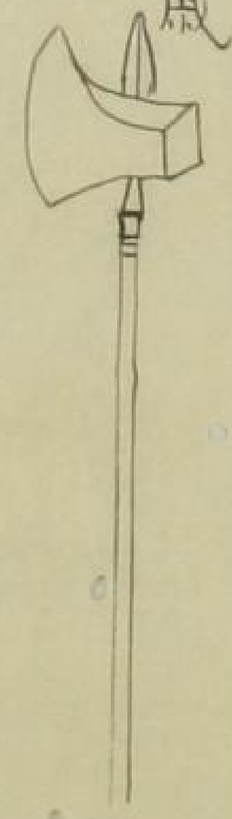
戈



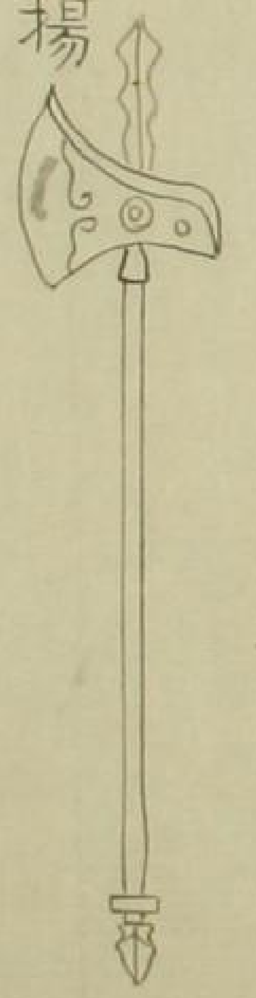
戚揚 同上

戚ハ斧ト同シ揚ハ鉞ト同シ 鉞ハ大ニシテ斧ハ小ナリ

戚

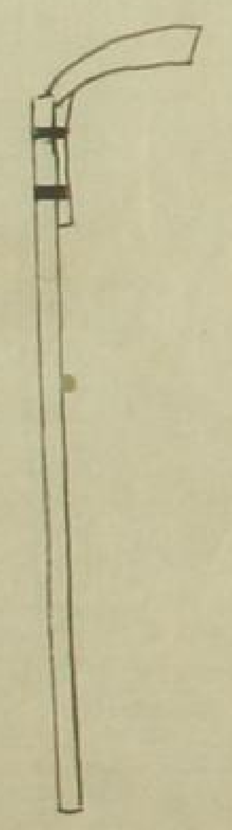


揚



庤乃錢鎛 臣工

錢ハスキ鎛ハクハナリ 草ヲキル小ナルモノ也

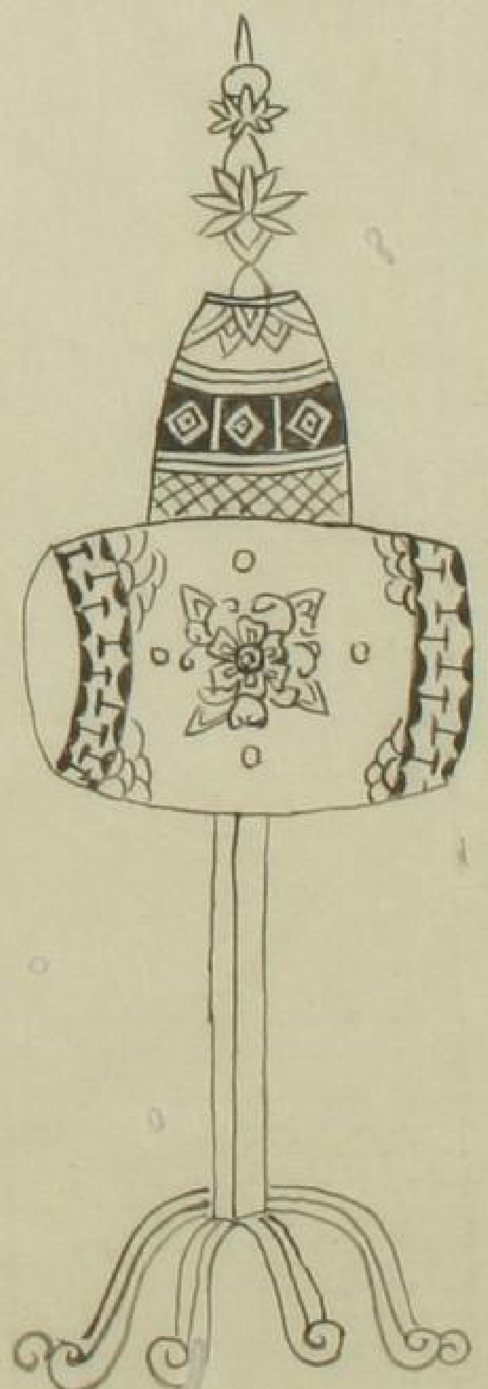


奄観銍艾 同上

銍ハ小カマナリ

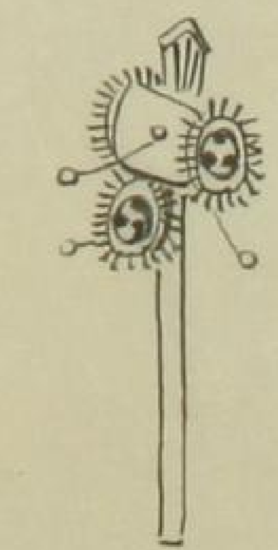
縣鼓 有瞽

縣鼓ハ周ノ制ナリ夏ニハ四ツ足ヲツク足鼓ト云商ニハハシラヲツク楹鼓ト云周ニハ簨虡ニカクルユヘ縣鼓ト云簨虡ハ前ニ出タリ



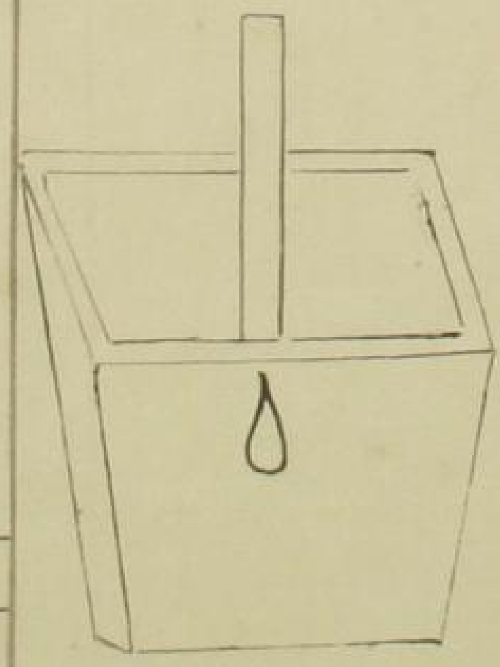
鞉磬 同上

鞉ハフリツヽミナリ



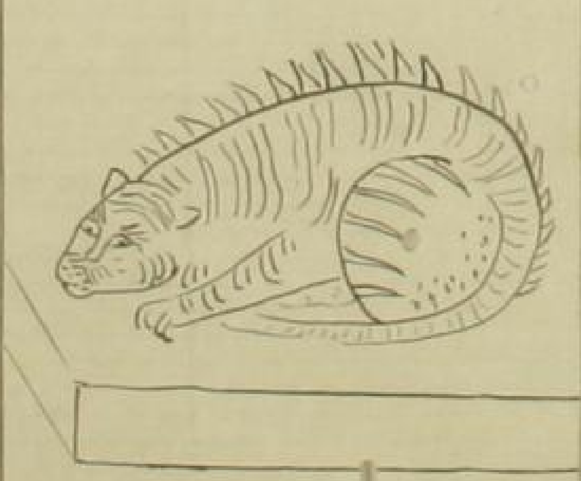
柷 同上

柷ハ形漆桶ノ如クニシテフタナシ中ニ椎アリテ柄ヲ底ニカラクリツリウゴカメ左右ニウチナラス楽ヲハジムル王ノナリ



圉 同上

圉ハ敔ト同シ形チフセタル虎ノ如シ背ニ二十七ノ刻アリ尺木ノ以テカキナラス楽ヲトヾムルモノナリ

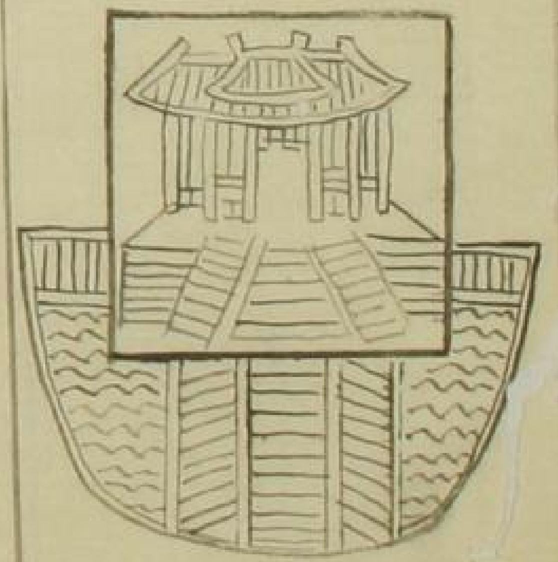


鼐鼎及鼒 絲衣

鼎ハ三足両耳アリ大ヲ鼐ト云

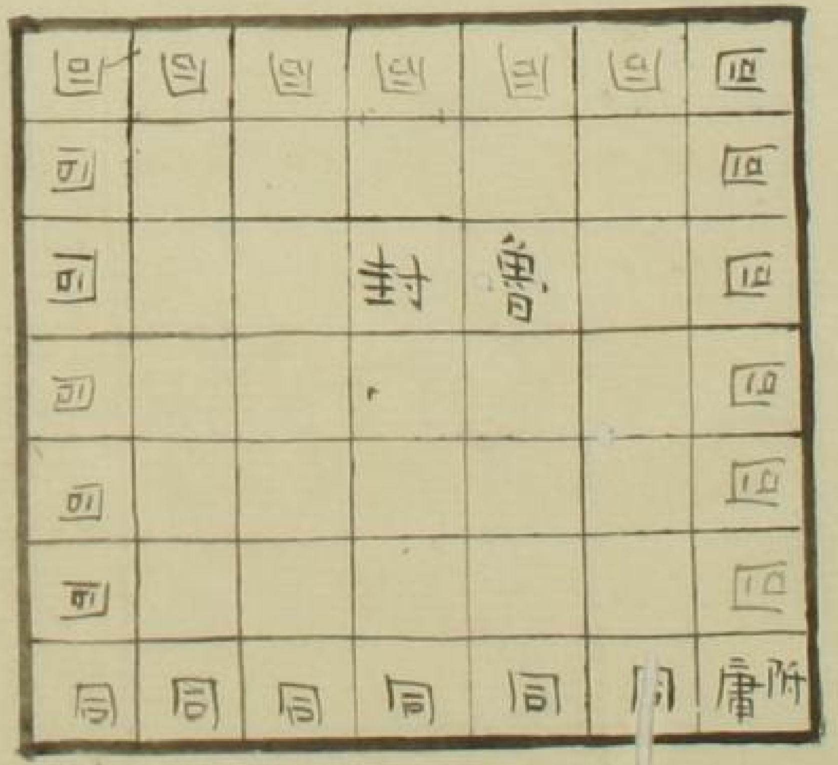
既作泮宮 魯頌泮水

天子ノ學宮ニ辟廱アリ外ニ圓ク池ヲメグラシ水ヲ通シ四方ヨリ來ルモノヲ均クセシム形チ玉璧ノ如シ諸侯ハ東西南三方ニ水アリ形チ半璧ノ如シ其水ヲ泮水ト云其宮ヲ泮宮ト云



錫之山川土田附庸 閟宮

附庸トハ小国ノ君自ラ天子ニ通スルヿヲ得ス〆大国ニツキテ通スルヲ云魯公ニ附庸ヲ玉フテ封域ヲヒロムルナリ

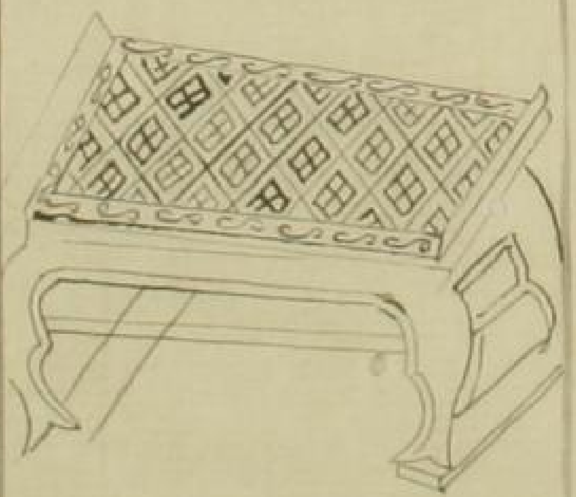


犧尊將々 同上

牛ノ形ヲ尊ノハラニヱカクモ云ヒ又牛ノ形ニツクリタルモ云

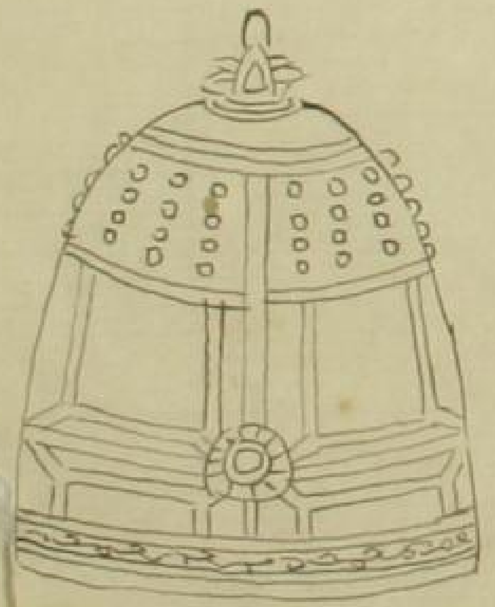
籩豆大房 同上

大房ハ俎ノ足ニ横木アリ下ニ両跗アリ上ハ前堂下ハ房室ニ似タルユヘ名ツク



庸鼓有斁 那

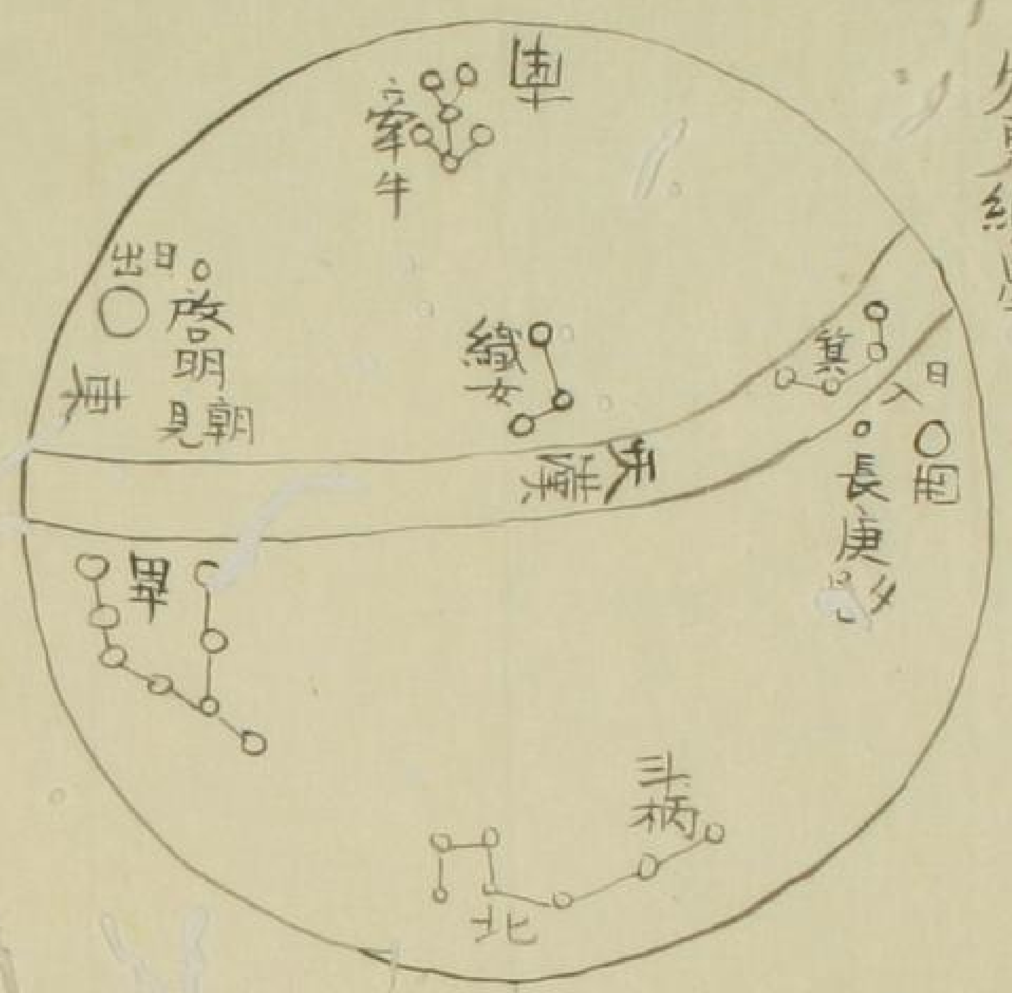
庸ハ鏞ト同シオホカネナリ



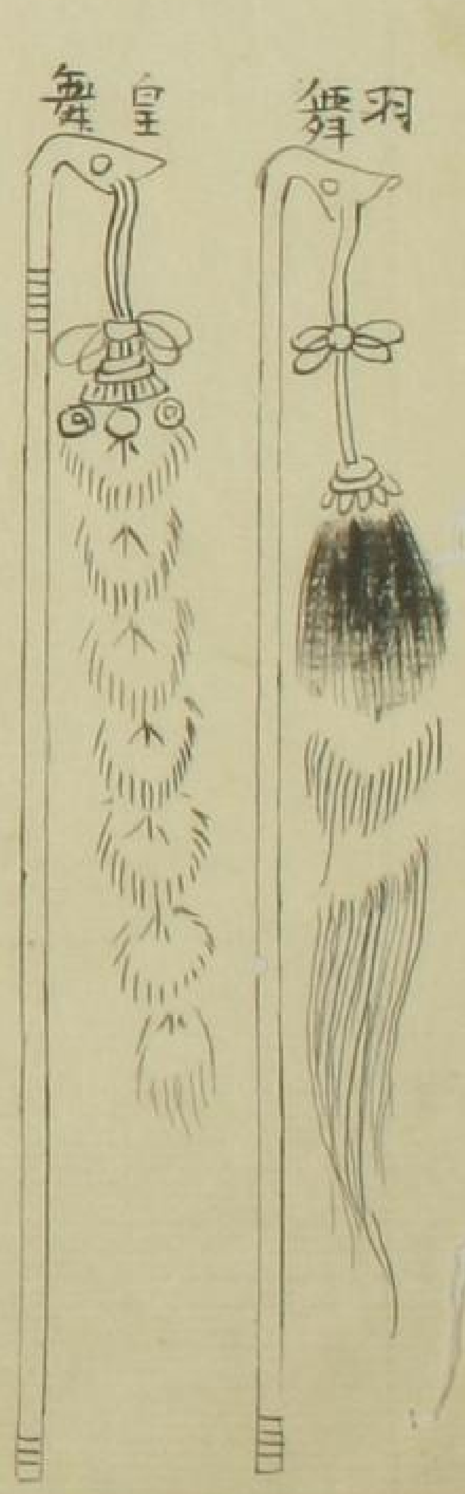
無冬無夏値其鷺羽

鷺羽ハサギノ羽ヲウチハノ如クニサシタテ其柄ヲトリテモノシカタトスルナリ 皇ハ五色ノ羽ヲモテユ凰皇ノ色ノ如シ

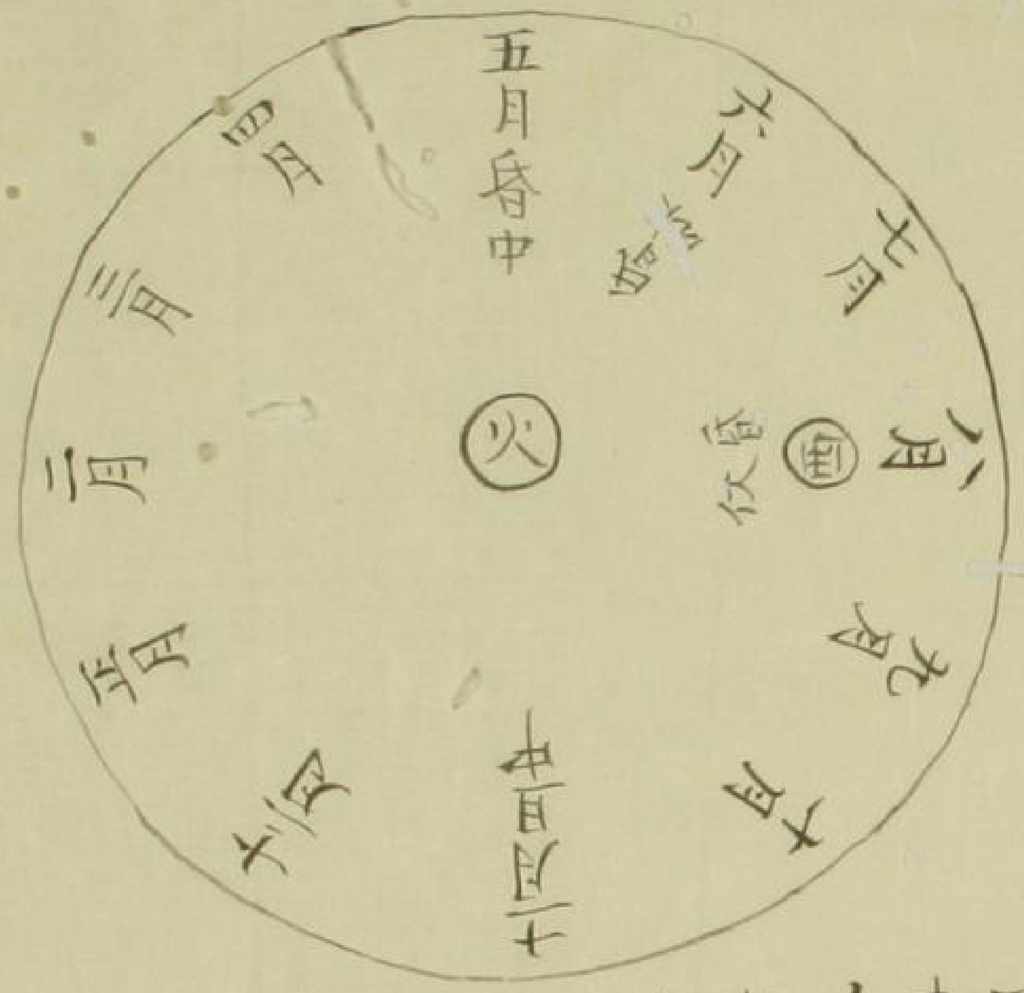
大東總星



織女ハ天女ナリ牽牛ハ服駕ナリ 啓明長庚ハ皆金星ナリ 日ニ先立テ出ルユヘ啓明ト云日ニオクレテ入ルユヘ長庚ト云箕斗ノ二宿ハ夏秋ノ間夕南方ニアラハル北斗トハ箕ノ北ニアルユヘナリ



七月流火

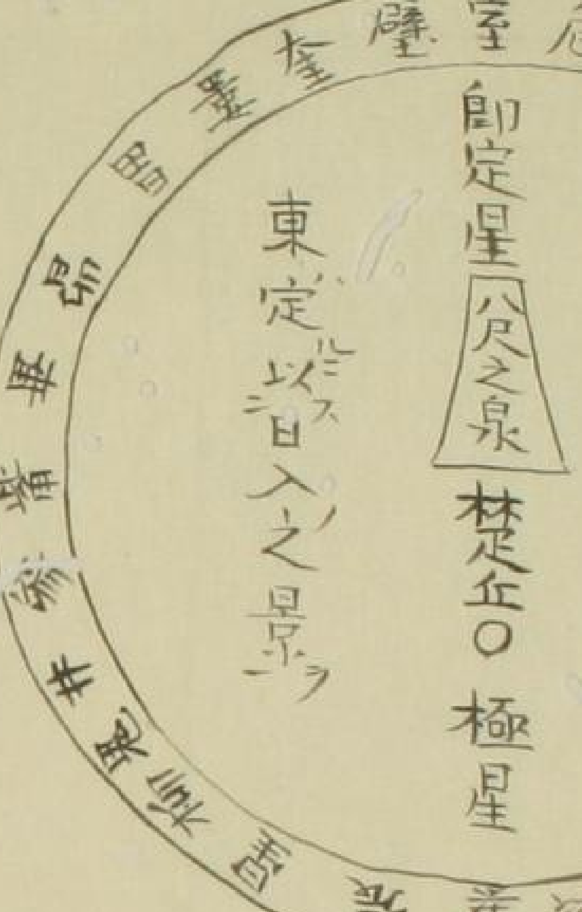


七月ハ即今ノ夏正ノ七月初昏ニ北斗申ノ方ヲサス月ナリ 流トハ西方ニオツルヿナリ 火ハ二十八宿ノ内大火心星ヲサス今ハ七月ノ節初昏ニ心星正南ノ午ノ位ニアレドモ公劉ノ時ハ西ニカタムキテ未ノ位ニアリコレ古今ノ歳差ニヨリテ也ト惕齋先生ノ説ナリ

火星六月ノ昏ヲ以テ地ノ南方ニ加ハル七月ノ昏ニ至テハ下テ西ニ流ル

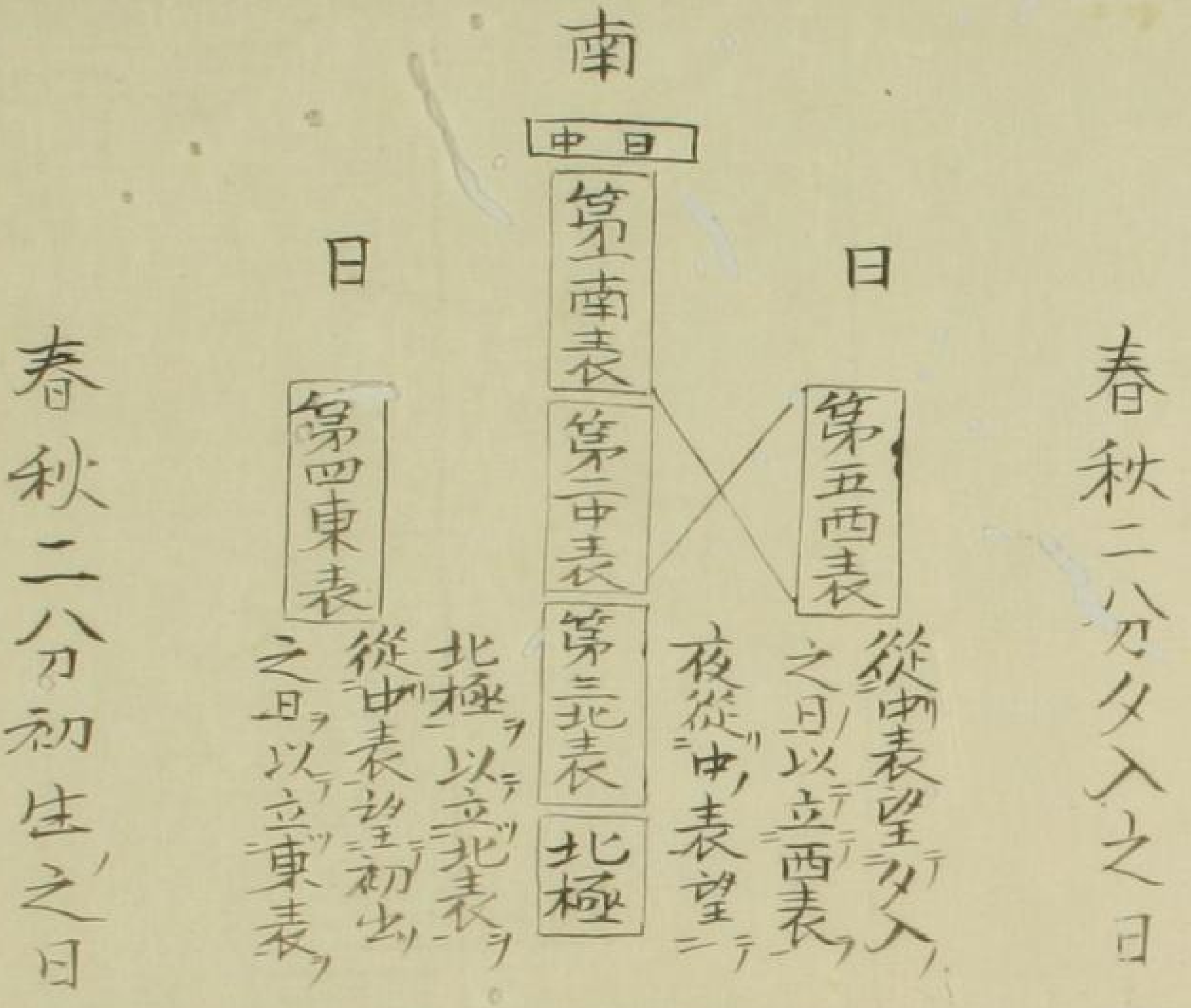
火ハ九月ニ伏ス十月ニ至テハ昏旦並ニ見ヘズ只冬至ノ後旦ニ中ス正ニ三四ニ至テハ皆旦後ニアラハル

定之方中



定トハ星ノ名二十八宿ノ室ノ一名ナリ方ニ中ストハ初昏ノ時ニ南方ノ正中ニアタルヲ云卽今ノ十月ナリ揆之以日作于楚室トハ先ツ表ヲ立テ日カケヲハカリミテ東西南北ノ方位ヲ正シクスルナリ 八尺ノ臬ヲタテ其日ノ出入ノ景ヲハカリテ東西ヲ定メ又日中ノ景ニ参ヘテ南北ヲ正シクスルナリ

相陰陽 公劉 図



陰陽トハ日カケト寒キトヲ陰トス日オモテト暖カナルトヲ陽トス既ニ日ノ景ヲハカリ東西南北ノ方面ヲ正フシ又岡ニノボリテ地勢ノ高下向背ヲミル也景ハ日カケヲハカリテ四方ヲ正スナリ 山西ヲ夕陽ト云豳ハ梁山ノ西ニアリ公劉コヽタ陽ノ地ヲ相テ豳ノ居ヲ建ツルト云ヘリ

以上ノ四圖ハ詩経大全ニ出タリ

陸氏艸木疏圖解附録大尾

安永八亥正月
京都書肆
日本橋一丁目
須原屋茂兵衛
五條高倉東江入町
北村四郎兵衛

四製黄栢丸
黄栢 去粗皮淨四斤 一斤米泔水浸 一斤以好酒浸 一斤蜜糖水浸
右俱用磁器浸之三味俱要浸二指為度冬月
浸七日夏浸三日春秋五日濾出晒乾仍存餘
汁待後用再將黄栢一斤切作五寸長用真酥
油半斤以磁碗乗之先將銅銚將水熬滚再將
酥油連碗入水熔化將黄栢排以微火炒熱用採
刷蘸酥徐々刷上且刷且炙各使透徹功已忌焦
黒炙畢放於冷地上以磁碗覆之二日去火毒

并前共為細末以前存煎汁和為丸如汁不敷
再加蜜酒以匀和之丸如梧子大毎空心及臨
卧酒呑下五七十丸徐以乾物壓之此薬滋腎
降火化痰之聖薬也若吐血遺精眼半形即
愈如相火周身疼痛減黄柏二斤加犀角一両
為末入前丸中

赤水玄珠

文政六年未四月廿二日酉之刻
西御丸[illegible]院[illegible]
[illegible]
松平外記
年[illegible]歳
又[illegible]到白儀
同役[illegible]切殺し[illegible]切殺[illegible]
同役
本多伊織
五十八歳
八百石
[illegible]
同役
沼間左京
三十五歳
八百石
[illegible]十文字ニ切[illegible]

又試石儀
其先既ヲ掛ケ之印也

清水氏用人 赤千郎起居
同役 戸田[illegible]
郎十八才

手[illegible]石
浄水路より肩先之印也

同役 百瀬源十郎
四十六才

手[illegible]石
清水[illegible]迄印也

同役 神尾弥三郎
三十才

右之眼[illegible]
[illegible]

[illegible]

一両　四戔

一斤　一百六十戔　[illegible]以一決之

凡方書ニ有稱一觔者字彙曰此字即所爲今俗ニ多作斤字矣疑是斤字乎全九集曰諸方云某草一束以重三兩爲正云一把ト重二十兩爲正也 毎兩今十錢

瑋 造黍量之升容糊調之菓節試ニ毎一升分ニ四千丸ニ恰モ如梧桐子大ナリ密ニ合陶氏カ説ニ足以解惑 [illegible]

○杉ニ世従ヲ以考レハ胡椒四千粒ヲ以テ一升トスヘキ者ナリ

○水一斗ハ八十目ナルヘキコヲ云説

○第一帖ノ重サ定数アルヘシ然レトモ難キ事ト云説
○生姜一斤　羅尚恒ガ斉效醫述ノ説ニヨリテハ
一銭ノ第ニハ二分五厘ニ作ルヘキ乎（一斤ノ重サ）　然レトモ於発表
ノ劑ニ用ル例ナリ

金銀箔

金銀箔百斤トハ一銭ノ重サヲ用ヘキ乎　第ニ
今本邦ノ金箔ハ方三寸四分二百八十五六斤ニテ
方書ノ百斤ニ當ルヘシ　銀箔ハ方四寸二百五十
斤ニテ百斤ニ當ルヘシ

所謂開元銭也以本邦ノ等子ノ秤之輕重不斉均
其至軽者ハ八分許其重者ハ一銭一分許孰取孰
捨本邦寛永年中鋳寛永通寶銭毎一箇
重サ一銭故ニ民俗稱一銭重謂一文目ト雖然循
有軽重大小不均其至軽者ハ八分許其至重者一
銭二分則与開元銭頗ル同不必皆中法度故唐
秤与本邦秤不同有差医学矣害ニ秤開元銭
従値ハ八銭唐宋ノ一両盖誤ナラン耳

呉秤

一銖　五分
一分　三銭
一両　一十二銭
一斤　一百九十二銭

宋秤 廣秤也 明同之

一字 二分五リン　一銖 四分一リン六毫半強　一分 二銭五分　一兩 十銭

一斤 一百六十銭

晉秤 半秤也 蘇恭曰後漢以来分一兩為二一兩張仲景用之一斤為一斤 秤ニ二ノ誤歟

一字 一分二リン五毫　一銖 二分半強 零八毫　一分 一銭二分五リン

一兩 五銭　一斤 八十銭

本邦斤兩不同 斤玉本艸ノ説ト同故畧之

本邦合薬之分兩

一字 一分　一銖 俗ニ省テ作朱ニ 二分五リン　一分 有大分小分之異大分之分者一銭也小分之分者

十分ニシテ一銭之一也 故ニ大分之分為三分者一小分之分一分ヨリ以至九分俗ニ之分

俗音武

十斗為斛 又作石或作碩

區 又作鏂 烏候切

庾 又曰籔 蘇后切

累 力委切

古秤 神農秤也梁陳皆依此 ○註文省本邦

一銖 二分五釐　一分 一銭五分　一兩 六銭　一斤 九十六銭

齊秤

一銖 三分七リン五毫　一分 二銭二分五リン　一兩 九銭　一斤 一百四十四銭

後周玉秤

一銖 二分八リン二絲五忽 一毫　一分 一銭七毫 六分八リン五絲　一兩 七銭六分

五リニ

一斤 一百零八匁

隋秤

一銖 七分五リニ　一分 四匁五分　一両 一十八匁　一斤 二百八十匁

唐秤

唐孫眞人千金方曰、古秤惟有銖両而無分名、今則以十黍(十當作百、傳写之誤)為一銖、六銖為一分、四分為一両、十六両為一斤、此与古秤並異、大学衍義補二十六巻曰、唐高祖武徳四年廃五銖銭、鑄開通元宝銭、毎十銭重一両、計一千重六斤四両、得軽重大小之中、

瑋按[illegible]倍

唐孫真人千金方曰古秤惟有銖兩而無分名

今則以十 十當作百傳寫之誤 黍為一銖 六銖為一分 四分

為一兩 十六兩為一斤 此与古秤無異 大学

衍義補二十六巻曰 唐高祖武德四[illegible]年廢

五銖錢鑄開通元寶錢 毎十錢重一兩 計一

千重六斤四兩 得輕重大小之中 瑋按 [illegible]倍

日本の制[illegible] 本草の豆腐とかりと 東坡も[illegible]曰[illegible]にて[illegible]なるれこし 大鑑 西川先生の雑詩かなり

仁斎先生説あり 豈[illegible]曰脆石期食 准南[illegible]食中豆腐[illegible]傳 淮南鴻[illegible] 鮮[illegible]未知斷味厚[illegible]

職人[illegible] [illegible]をのく 左右[illegible] 鄙さ 合付[illegible] 趣 但し[illegible]出して[illegible] 判注

[illegible]と鄙[illegible]かり 淡醉

三十九番豆腐かり

庚

ところ燒豆腐加料麻辣とあり 豆腐を[illegible]

まて[illegible]中川と豆腐の[illegible] 麺と[illegible]

中華まても豆腐の調味よ候あると

見るへし

田楽法師高足曲

加賀能登越中まて豆腐田楽の図

[illegible] 田楽豆腐

田楽と以ふ濫觴ハ相撲入道九時代ヨ田楽法師

とて一種舞狂言の類あり 新坐本坐の田

楽とて世上ゑ好まれてあるとし こと太平

記ヨ見へたり 今も南都春日の祭礼中ニ小

此曲あり 尤も高足九曲と以ふあり 其豆腐

の串[illegible]かたちそ王ヨ似たるとて田楽

と名づけたあり 加賀能登越中ニなる田楽

をまたるともんそよつきさしやくなり

家北の今宮の御田楽も亦同し 京田楽

乃古製なり

豆腐と松茸と同しく煮て調味よろしく賞せ

まことにとろとしも同しことあり 元の程渠南と

以ふ人の詩ニ

頭子光々脚似丁 祗宜豆腐與波稜

釋迦見了呵々笑 煮殺許多行脚僧

葉子奇の草木子と以ふ書ニ見へたり

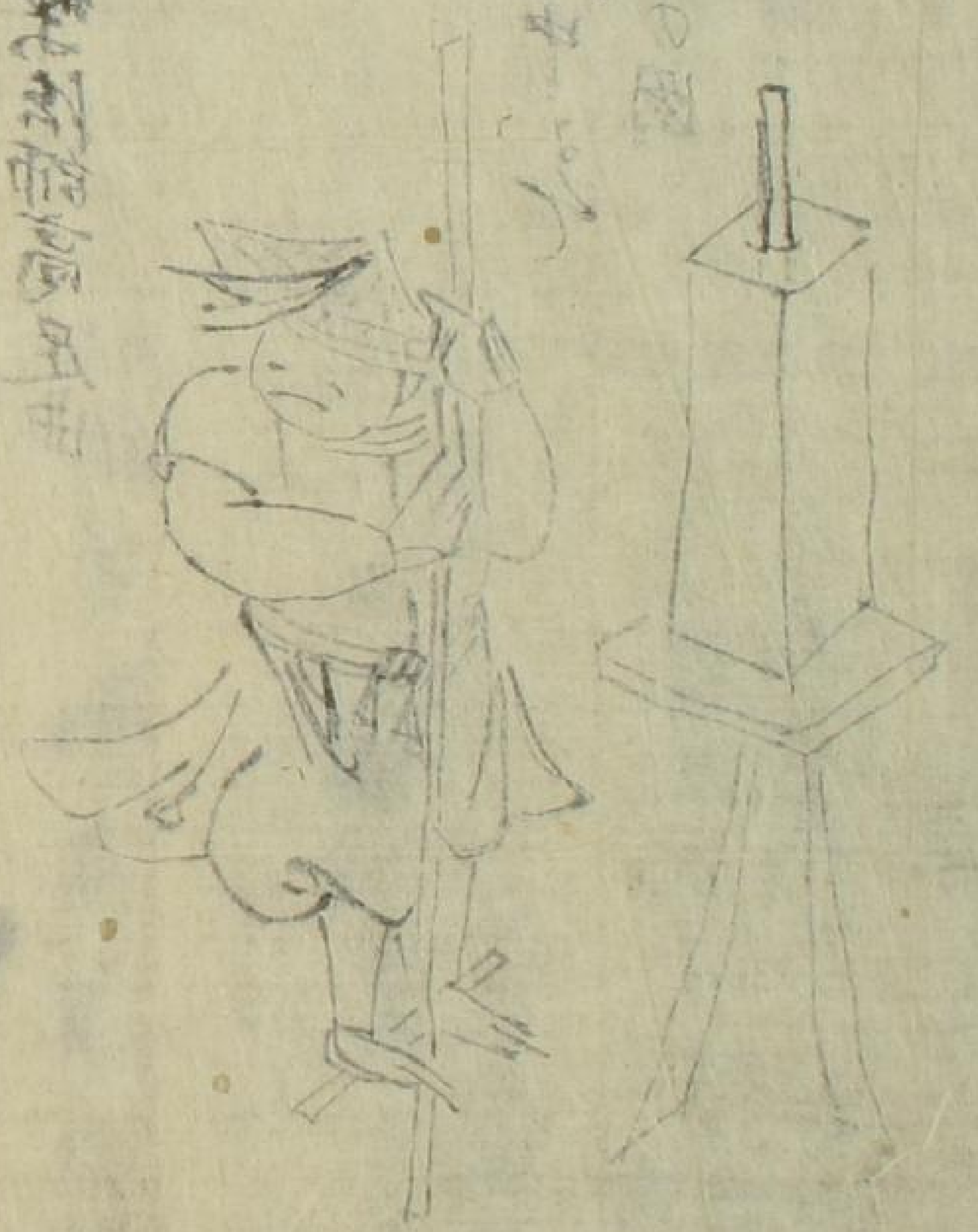
大坂ゟ去ル町人来状写

今般去ル辰年上刻出鉄砲打鉦池摂州天満ゟ出火
与力同心ゟ懸者救民ト旗差立大塩平八郎
外に市中所々焼払候故御役人に大塩父子召捕
御手当被仰付御役人衆方大勢之儀に付其行方相知れず大塩
家を焼立出申に剰遂切腹いたし申候中焼之體出候迄
御八丸之段大塩父子召捕候はヽ方ゟ市中風説安心仕候
右之段御届申上候

三月廿七日

河内ゟ
加兵衛

白井御主殿様



此一方報ニ出度き[illegible]上掛

[illegible]七[illegible]上り[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

大坂[illegible]大坂[illegible]中[illegible]
[illegible]大名[illegible]
[illegible]十二月[illegible]
大坂[illegible]大坂[illegible]
[illegible]
[illegible]大坂[illegible]
[illegible]
[illegible]京[illegible]
[illegible]

[illegible]田[illegible]
[illegible]
[illegible]

是ハ大坂落城之落書[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]自殺[illegible]

大坂のおつるとおもて八[illegible]川文[illegible]
人の先ハ先の己かた先の大坂の切文[illegible]
大坂の下ねのひとハ貴[illegible]

一 四月二日
公方様内府様御参内、御装束様
被成御参内候、内府様御参内御参候
出御候、上様ゟ事終　将軍
宣下当公方様ゟも終
公方様へ御対面ニ御参内当
太閤所様ゟも終御参内
〻後ハ三御所様ゟ相謀
御一方様〻仕度 上様

[illegible]

天保八酉年

一 去申年ゟ東叡御参詣ニ付此已来
御府内両寺中出日緑之事
難被仰出候御曲輪所々相勤之
將ひ差添之通リ又ハ御修繕之御免
御広座御用掛リ申請済ニ付
遊而ハ道後ニ道ひ人ニ相成御差
前之ゟ相付候此者ニ付代官
中寺ニ年中御改ニ付守家室相

大御所様大納言様ニ相譲被
将軍 宣下之後御前条
相済御老中御祝儀ニ付御祝儀
出府ニ付 大御所様御老中様ゟ出府
御老中様御老中ゟ御祝儀御掛
役所へ御老中様ゟ出府
右ニ而ゟ無之儀

一
山本五郎兵衛様掛り　西村猪平
御内存新宅御出　御殿ひ出
[illegible]
道路[illegible]
[illegible]
[illegible]
場[illegible]
[illegible]

二月十一日[illegible]
[illegible]
さしみ[illegible]の人
[illegible]
汁[illegible]
向[illegible]
めし
[illegible]白[illegible]
[illegible]
[illegible]

掛物[illegible]　[illegible]
釜[illegible]
水さし[illegible]
茶入[illegible]
茶碗[illegible]
茶杓[illegible]
[illegible]
香合[illegible]
[illegible]
[illegible]

二月六日 [illegible]文化亭

[illegible]

掛物 [illegible]

釜

水指 [illegible]

茶碗 [illegible]

菓子 [illegible]

香合 [illegible]

[illegible]

花入 [illegible]

菓子 [illegible]

[illegible]

掛物 [illegible] 一 [illegible]

茶入 [illegible]

永樂通寶

名代 一ト座元 尾張屋[illegible] 古柏

菓子屋竹三良 古銭屋岡野

[illegible]

作者 瀬川一郎

名口上

一 [illegible] 以上

此紋所ハ菓子屋竹三郎　前生ハ鏡山之岩藤

此中操ヶ相知候　差潮 壱弥

此紋所ハ古銭屋囲野　前生ハ加々見山之尾上

役者替名之心覚

一 楠根太夫　瀬川吉山

一 若イ衆市助　大谷松蔵

一 若イ衆三作　中村粂五郎

一 代参五十嵐八之丞　三桝為五郎

一 こうる[illegible]ん[illegible]　嵐冠十郎

一 菓子屋竹三郎　尾上新七

一 古銭屋囲野　沢村田之助

一 夜よ ちやせん

一 若い者 ちやせん

太夫 春扇勇結太夫

ワキ 同 渋太夫

三味線 金沢出来座

同 役右衛門

遊行寺本舞台三間の間正面辻堂社
の本よし ちる井とう ゆう 枝雲
雨く ちらく 散て 大 和 雲 より
ふん 新 の うつ 桐 が 大小 つり
エイや 井 る 幕 明 と 鳴 物
作 家 の 形 ちら に ちやせん 道具

一 鳴物 寒れ く

ト 本舞台 〆 返 く 幕 附 かれ

笠覆寺境内ニテ當正月廿八日宝塔堀出ス
文化十一戌年也

為元
一 當寺笠覆寺於て此家に於て表に
根ざりし堀出したとける宝塔から
くれ願の御宝物を全く稲熊氏か
為自ぶらつた一味の風のぞう人付躍
からめて方れユリや
ト おんをたてくまつけさやき
ナるてんつつる

一 安人
花渋ら

為元
一 うさぐ第れ
こふく
一 大アリ
ト 指らくまくまんと神ば家の月様を向ケ
又宝山稲熊氏そまこと形う

宝山
一 ても前風の前をロう母う志さんれ
大仕事ロコレじやおかた(?)へなりまとめ
りく二つ山の會社だんれ口づ記の中いへて
ても出会のトりやそろくとふけ
らうらん
ト のさかいを人に?に?附
おゆう記家とそこしつるた記に據う

中みさへ殿とらへさらくあまれ云のたれ
ちからしくたみ[illegible]ちらかるたてゝ御らう
ト〻ゑ山経をひらけし　ひとつの[illegible]れ
トこゝろけるおくふさ表面おとゝう
ろう〻へ立っしうけ
一 白地
色紙を付箋之しを着せつけ
一 ハアリ
トなくしてなしてまなめんと十日れく
うてハん附のたつりく締すく切り
表を命ふ一面横らう云附簾らさ
扇子のてんらさ絵書鏡あんどう

中條屋下よの々書院に大黒柱下庄
はちかるどうちる庭絵の廊は
二階部とらへしの後尾　此画みと ○
口上座らおとうさん覚より[illegible]輩座の
はじまり剣柄云の御髭　竹三品郎
御中標のあやうて澤すちさ丈文字の
纏鳳凰刺繍く我者丈二扇せん
竹に大星いよし　道化の絵り
さらしく
扇のれ收扇二階花[illegible]うちに中表の二表

あそ[illegible]沢（あと）[illegible]見えて[illegible]たら
ろう[illegible]世をすて[illegible]くれなく[illegible]もたるが
[illegible]その[illegible]の[illegible]（こゑん）[illegible]（ひらくゑん）[illegible]（ろうそかわき）[illegible]
まれそ[illegible]の[illegible]（こ）
[illegible]（とがのろ）[illegible]（わち）[illegible]とて[illegible]（つぎ）
[illegible]（たきま）[illegible]（よか）[illegible]（さと）[illegible]（あたし）[illegible]
[illegible]とこ[illegible]（あつたう）[illegible]あ
[illegible]（なろこゑろひとめつこ）[illegible]（こすろたやちよ）[illegible]（やらよす）[illegible]
[illegible]（みそこ）[illegible]（たろう）[illegible]（こま）[illegible]あとて[illegible]

[illegible]（とがし）[illegible]（そて）[illegible]（ろうみ）[illegible]（あさく）[illegible]の
[illegible]（い）[illegible]（たとやま）[illegible]（もの）[illegible]まづき
[illegible]（あね）[illegible]（そう）[illegible]（そう）[illegible]（ト）[illegible]（り師）[illegible]
[illegible]（おた）[illegible]（とし）[illegible]の[illegible]（神戸）[illegible]（越後）[illegible]（おつ）[illegible]（こ）
[illegible]（かひか）[illegible]（こ）[illegible]の[illegible]あ
[illegible]（えち）[illegible]てなりけり

[illegible]
一 [illegible]
ト [illegible]の[illegible]
ト [illegible]

一 枚 ちと取ユリやてカどらうかなぞん

一 葉 どなたと云たいがりござあんハ何ん中ゐすゝ
ここの方をお尋ねん

一 枚 何をと云て江戸けち無馬と云ゆへあると
いかれしてこのくあんけち府るてて
みけさにしくニテモけちこ語やつて分べハり

一 葉 てちやくそれはつくりんがろうよこへん
いる人葉方へやうなおつるのじや

一 こうかして 十文字ハどちらじやく

一 葉て 其がこちらおかじやらうりか合上でるハ
何れが江戸じやく

一 こうかく 江戸とどちらじやく

一 葉 お江戸ハ猪なの傍所エ(ハイ)く

一 夜こうかく 何をしぬうそのじやうやくしやれ所でハ

なさんなる
ト此のさわぎける内に所々御召と橋本から
らり冠せられんとするまいるの差附
さる方への形りにて
冠せ
サア此母付のアしやうし当分お家より人柄よの御
ー来延夫婦のうんぐへ　ト脇へ廻る
一枚
一モをくうち見れの人遍さんじやありませなう
冠せ
一手くたれじやとこみ加へ楽亭の器付られつ
出た文殊あ……んのお家も人柄ものわかるわ
慮外あれ母のんけこう世話でたのむらぬ
身も今とそての表半わどや
ハヽヽ
一枚
一イヤそこつて世話お頼み申す迷子私ら
所のうんぐんのた夕から夫たからんとそんで
うきまりませぬか
冠せ
一るんじやう世話でこんでわるでく夫婦ある
身たがをとトやて　ト榛平よりめどをいふ
あんしれなせんの孫有りわし
よくそ
よんぶ内のわん念さてとなさよろし
○

○ハここ忘れさ出ま居から母さんさん代台
ねじやもし
一 枝 う母さんそうまち年
一 宿 色そてうさめん相白に及やう
一 松葉 あかも色てうさめん相り升に及から
一 冠たふ 志うし色やさあつ博るえたるれなまるも
一 松葉 なべく あつえたるれねまねとこふ様
和り

一 冠たふ 多くからぬ中見えとたゐの色を見世乃こ
うんてゐる
一 ミるし ヤノ江えの戸棚のうちにござふ
一 葉 モモへ行るてとてあらしよりし九
一 冠 丼(ドンブリ)浦さ喰の盛りのまゝ菓子や
一 ミるし エイリリ　トおつより
一 冠 ナヘトト云めうに及さお一 なかん遊

廿八 和合の楽世の巻之

卜花道人文

一 天下かりし草子でハあれども やハり めう
りやうそハあれどもふじやハり草子芸
わいそくらんるれぬハ
トちやくたりくとて勝ら川花たく〳〵文
とたやり分れ向も面うてくるもあれしさ
而て魚のやうさり火に一立き婦人れ新宅院
のそひあ人よりか几洲みのきるこれたる
もし物

一 新宅
コレ編〳〵も云あいつまゝ茶きてたら心のまゝあん
何ぞうせんぞ身請してそれしれやらうと
苦き人のお情なれたんで不わいとうりやよくハ
皆わか段 娘子の身先一旦白しや二秋
らん祝立の女房おかたき子中あしらぬ
を婦に 捨てるかれさアそ哥さと世史は
あられうぞ付て養理立草子立の鉄代
云ひけさと云たるまゞ友(こいまそ)とハらび柳したなく
此房理を戒るけてそあるハ廓へ入んて
たしも不将死ある〇べ哥く思身の上も御の

肉の色衣ハ白きはそれハおもぬをあらひ
三蔵ハ三つ[illegible]西国郷ハ友洞
智[illegible]の義理かあるかぎり世学の[illegible]理
ハ[illegible]見えて[illegible]ハ誰か集[illegible]かな[illegible]
かのうたの[illegible]國の和一座[illegible]見ん
[illegible]和[illegible]石[illegible]種[illegible]
[illegible]それ[illegible]ハたゝ日[illegible]
正[illegible]如く覚[illegible]
つらつら

[illegible]
[illegible]風の[illegible]世[illegible]上書[illegible]
男文字[illegible]
うち[illegible]
樹[illegible]
松[illegible]の[illegible]月白[illegible]
滄の[illegible]
うとあ[illegible]
[illegible]

免しの江に百代の客をあけらしまふ迄た
あかし迷ひの鏡の上にかなしうにて白拍子
くをも花を見る石の上にいさしく花の中
御詠も見る門今ふ花の上の春霞かり
こちへあちへ花のまとひそ紅葉にて
道中より楽の上の金蒔絵にてもいかし
前の秋の萩と菱よ二ッ八重の一ッ衛
死ん下さんとこと有剣を立つ五島

夜と立出る道中の波おつる淵川岸も
いさとも水の上の合せ枝の桃の夜も
とめつ母の妻の身をあらしの雲見山
わこの上のそれから御行なの恋は根に
女の身のその中の雲の緑の色に
かくも残りたる立たる後のあ
これもほんとにあれ

千秋万歳楼楽亭叶
まで

文化十一年甲戌霜隆月

作者　近比呂六龍軒

持主

作者ワキ